



文化財愛護
シンボルマーク

北条町埋蔵文化財報告書20

Hōjō

鳥取県東伯郡北条町



Magari

曲遺跡群発掘調査報告書 1

Koyamagadani

曲小山ヶ谷遺跡

Miyanomae

曲宮ノ前遺跡

曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳

1996.3

北条町教育委員会

Hōjō
鳥取県東伯郡北条町

Magari

曲遺跡群発掘調査報告書 1

Koyamagadani

曲小山ヶ谷遺跡

Miyanomae

曲宮ノ前遺跡

曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳

1996.3

北条町教育委員会

序 文

北条町は、原始・古代より文化の栄えた地域で、総面積20.99km²程の小さな町にもかかわらず、遺跡の分布密度は県下一と言われています。

特に、縄文時代前期から晩期にかけての大量の土器、石器が出土し、「本県の縄文文化で最も豊富な資料を出し、かつ編年のための最も重要な役割をしている。」と評される島遺跡をはじめ、県下有数の古墳分布を形成し、特に270基以上の古墳を数える土下古墳群、230基以上を数える曲古墳群など、古墳密集度は県下一と言われています。土下213号墳の北に隣接する円墳の封土からは可憐な「鹿」の埴輪や人物、家形埴輪も出土しています。

ここに報告する曲小山ヶ谷遺跡・曲宮ノ前遺跡・曲55・曲234・曲235号墳では、石蓋土壙が2基、古墳時代前期の住居跡が2棟、段状遺構1基が検出されました。この発掘調査は、北条町曲地内における農道整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度に整理作成した報告書であります。特に今回の発掘調査で周溝部分より出土した土師器の完型品の多くは、曲遺跡群の発掘調査におけるひとつの成果であります。主体部の調査は地区外等の理由で今回はできませんでしたが、このことにより当時の古墳文化の一端をうかがい知ることができました。

今回の発掘調査の記録や、掘り出された出土品が整理され貴重な文化財として、私達郷土の歴史を知り、郷土の解明につながれば幸甚と存じます。

なお、調査に際しては、土地所有者・曲地区皆様に一方ならずご理解とご協力を頂くとともに、県教育委員会文化課・県埋蔵文化財センターをはじめとする関係各機関・各位のご指導、ご助言を賜りました。心から感謝し厚くお礼申し上げます。

1996(平成8)年3月

北条町教育委員会
教育長 井上 浩

例 言

1. 本報告書は、平成7年度に、鳥取県倉吉地方農林振興局の委託を受けて、北条町教育委員会
が主体となって実施した北条町曲字「小山ヶ谷」地区及び、曲字「宮ノ前」地区等の埋蔵文化
財発掘調査記録である。
2. 調査体制は以下の通りである。

調査団長	井上 浩（北条町教育委員会教育長）
調査指導	山栢雅美（鳥取県埋蔵文化財センター）
調査員	松本達之、宇田川 宏、西村勝義、日置叡左エ門、前田明範（以上北条町 文化財保護委員） 樋口和夫（北条町教育委員会教育課社会教育係係長兼社会教育主事）
事務担当	樋口和夫
調査協力	影山和雅、門脇豊文、松本 哲、福田寛子、井上三千代、川本美佐子、 木村聡子、中原由香里、向井康恵、佐々木直美
3. 本書の執筆、編集は樋口、影山が行った。
4. 遺構の実測、図面作成、写真撮影は調査員が、遺物の実測、遺構図は影山、門脇、松本が、
土器・遺構図の浄書は福田、井上、川本、木村が行なった。
5. 本書に使用した方位は全て磁北を示す。
6. 図面、写真、出土遺物等は北条町教育委員会が保管している。

目 次

序 文

例 言

目 次

挿図目次、挿表目次、図版目次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 位置と環境	3
第3章 調査の結果	5
第1節 調査の概要	5
第2節 曲小山ヶ谷遺跡・曲宮ノ前遺跡・曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳の調査	5
第4章 まとめ	20

挿 図 目 次

挿図1 曲小山ヶ谷遺跡・曲宮ノ前遺跡・曲55号墳ほかの位置図	1
挿図2 北条町遺跡分布図	2
挿図3 曲小山ヶ谷遺跡・曲宮ノ前遺跡遺構図	4
挿図4 曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳遺構図	6
挿図5 第1 竪穴住居跡遺構図	7
挿図6 曲小山ヶ谷遺跡出土遺物実測図(1)	8
挿図7 曲小山ヶ谷遺跡出土遺物実測図(2)	9
挿図8 第2 竪穴住居跡・第1 段状遺構遺構図	10
挿図9 第1 溝状遺構遺構図	11
挿図10 曲宮ノ前遺跡出土遺物実測図(1)	12
挿図11 曲宮ノ前遺跡出土遺物実測図(2)	13
挿図12 曲55号墳墳丘断面図	14
挿図13 第1・第2 石蓋土壙墓遺構図	15
挿図14 曲234号墳周溝内遺物出土状況図	16
挿図15 曲235号墳周溝内遺物出土状況図	16
挿図16 曲234号墳・235号墳周溝内出土遺物実測図	17~18
挿図17 曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳のその他の出土遺物実測図	19

挿 表 目 次

挿表 1 北条町内遺跡一覧表..... 2

図 版 目 次

図版 1 曲小山ヶ谷遺跡S1-01、曲宮ノ前遺跡S1-02
図版 2 曲宮ノ前遺跡S1-01、曲55号墳、第1・第2石蓋土壙墓・曲234号墳周溝内遺物
図版 3 曲234号墳周溝内遺物、曲235号墳周溝・曲235号周溝内遺物
図版 4 曲小山ヶ谷遺跡出土遺物1～15
図版 5 曲小山ヶ谷遺跡出土遺物16～25、B区出土遺物26～31
図版 6 曲宮ノ前遺跡出土遺物32～47
図版 7 曲234号墳周溝内出土遺物48・49、曲235号墳周溝内出土遺物50
図版 8 曲235号墳周溝内出土遺物51～54
図版 9 曲235号墳周溝内出土遺物55・S1、曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳のその他の出土遺物56～76

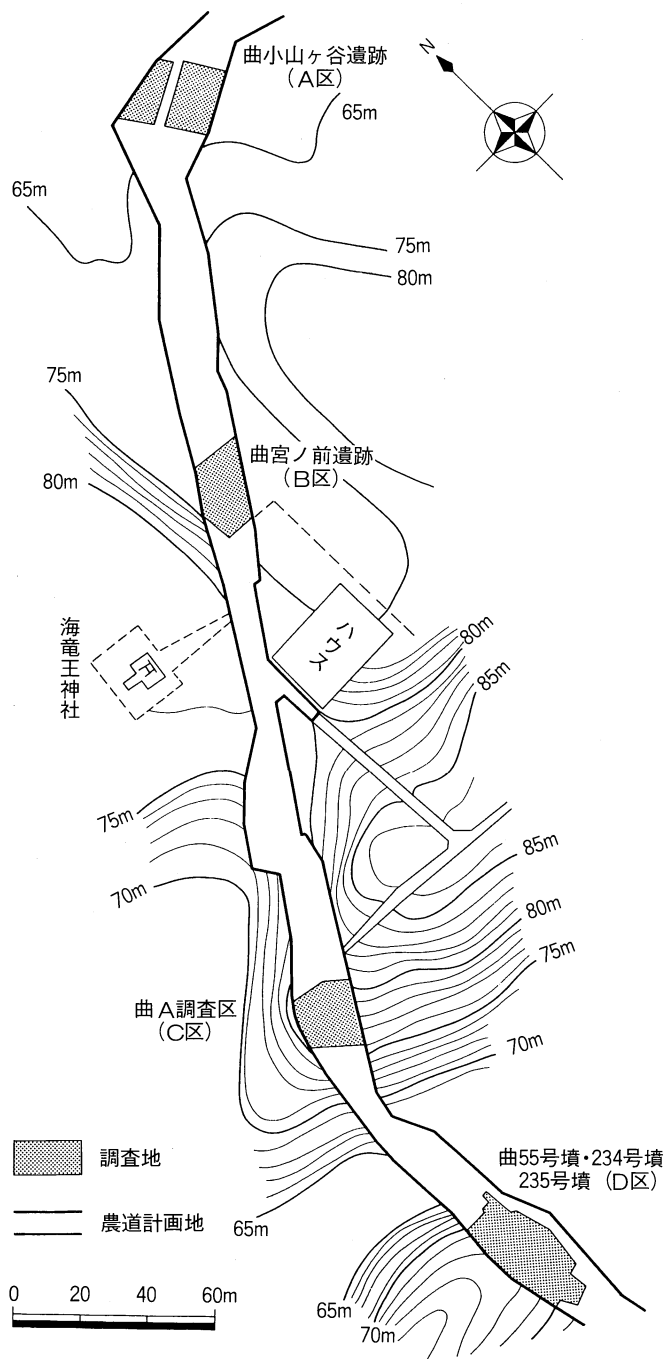
第1章 調査に至る経緯

北条町曲地内の丘陵地帯は、鳥取県の特産として全国的にも有名な二十世紀梨を中心とした果樹園が拓けているが、急傾斜地であり、谷も狭く細い道路しかないため、梨・柿等の栽培を遠慮してしまう農家が増えていることもあり、この地域全体の農道整備事業である県営北条西2期地区農免農道工事を行いたい旨の協議が、鳥取県倉吉地方農林振興局より北条町教育委員会へあったので、両者、本工事予定地内における埋蔵文化財の取扱いについて文化財保護の立場から開発工事との調整を図るべく協議した。

また、北条町教育委員会は、鳥取県教育委員会事務局文化課及び鳥取県埋蔵文化財センターとこのことについて協議したところ平成6年度に実施した試掘調査結果を参考にして本工事予定地内のうち、北条町曲字小山ヶ谷 (A区)、宮ノ前 (B区) 天向 (C区)、鶯谷頭 (D区) に調査区をそれぞれ設定し、工事着手前には事前の発掘調査を行い、記録保存することにした。

調査期間は、平成7年4月12日から平成8年3月25日までとした。

遺跡は、いずれも試掘調査によって新しく発見された遺跡である。



挿図1 曲小山ヶ谷遺跡・曲宮ノ前遺跡・曲55・234・235号墳位置図



插图2 北条町遺跡分布図

A. 曲宮ノ前遺跡ほか	1. 曲第1遺跡 (曲岡遺跡)	2. 曲古墳群
3. 土下古墳群	4. やすみ塚 (土下213号墳)	5. 茶臼山古墳群
6. 北尾古墳群	7. 島古墳群	8. 天王山遺跡
9. 北尾遺跡	10. 島遺跡	11. 曲226号墳
12. 船渡遺跡	13. 米里銅鐸出土地	14. 米里第1遺跡
15. 米里第2遺跡	16. 天神川河床遺跡	17. 宇ノ塚遺跡
18. 殿屋敷遺跡	19. 馬場遺跡	20. 用露鼻遺跡
21. 長畑遺跡	22. 茶臼山要害	23. 中浜遺跡
24. 下神1号墳		

插图1 北条町内遺跡一覧表

第2章 位置と環境

北条町 北条町は、県のほぼ中央部に位置し、東は一級河川の天神川を隔てて羽合町、西は大栄町、南は倉吉市に接し、北には拡大な日本海を望み、東西5.6km、南北4.7km、総面積20.99km²の町である。中央部は沖積低地が広がり、南部山地は大山火山碎屑岩類と安山岩からなる丘陵性山地となっている。当町は、町域の中央をJR山陰本線と県道羽合、東伯線（旧国道9号）が、さらに、国道9号線は海岸砂丘を東西に、ほぼ並行して走っている。

曲遺跡群 曲遺跡群は海竜王神社の北西側に位置し、今回の発掘調査で、古墳3基及び石蓋土壙、古墳時代の住居跡2基などを検出した。この遺跡は標高70mから80mの丘陵の先端部に位置し、本遺跡の後背周辺には、230基以上を数える古墳群が所在し、曲古墳群として知られている。

所在地 曲遺跡群は北条町曲地内に所在し、地番は北条町曲字宮ノ前1,438番地ほかである。

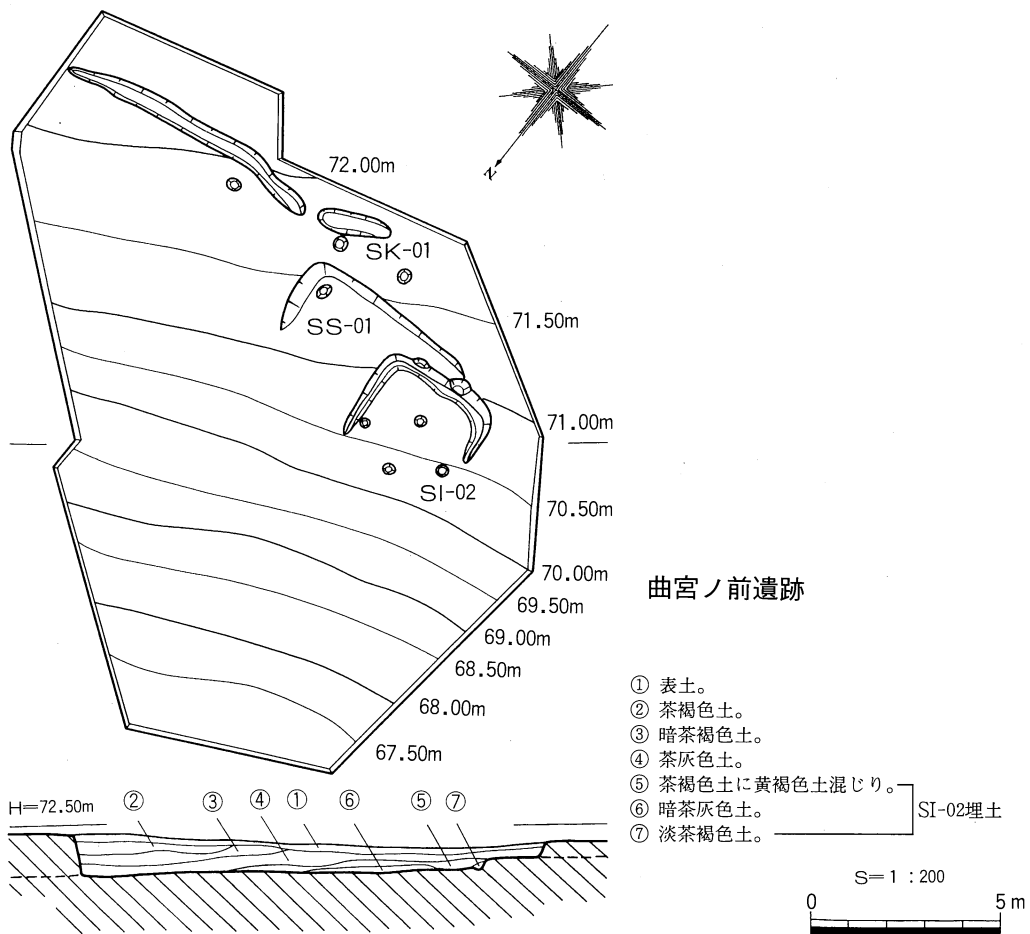
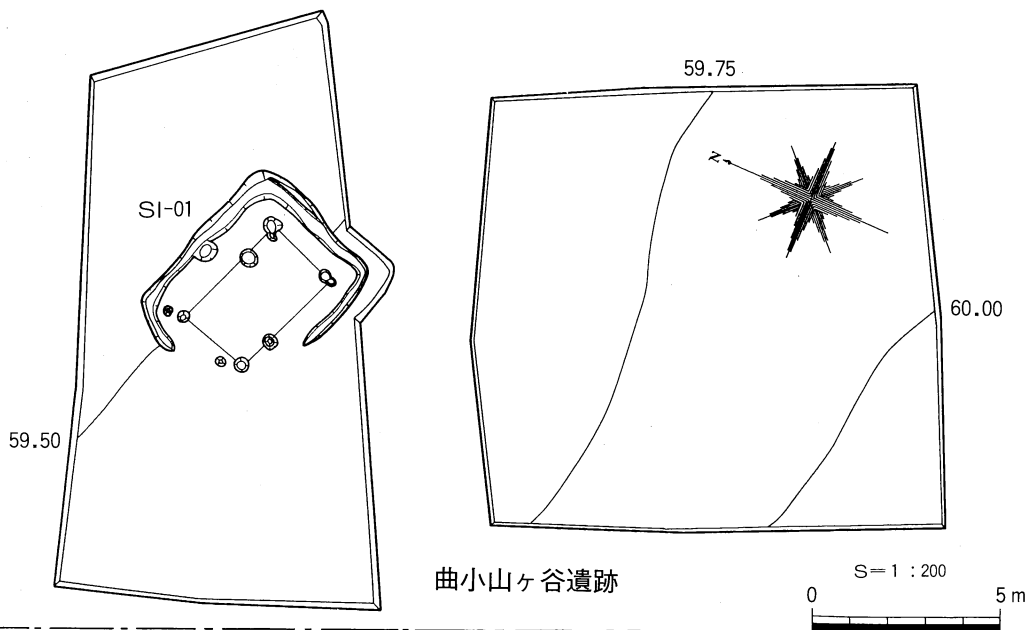
歴史的環境 北条町の歴史的環境をみると、東部の天神川沿いの遺跡（天神川）からは、土師器、須恵器、土馬、銅鏡などが出土しており、天神川河床からは縄文時代から古墳時代の遺物が多数出土している。

中部沖積地帯についてみると、この地帯はいわゆる北条平野で、砂丘後背地のラグーンが長年の天神川の土砂堆積作用によって形成されており、非常に高低差の少ない平野となっている。砂丘地は近世まで続いた飛砂がおさまって新砂丘で覆われているが、約1万年前に大山から噴出した火山灰の堆積や古砂丘、それに古代遺物を包含するクロスナ層があり、その露頭も砂丘断面などに、いくつか散見される。この砂丘地帯の続きの東側に位置する羽合町の長瀬に所在する長瀬高浜遺跡においては、多くの弥生時代前期から古墳時代そして中世に到るまでの多くの遺構が検出されている。

中央の水田地帯は、砂丘の堆積や天神川の沖積作用によって、湾形になっていた当時の景観が想定され、海進、海退を物語る海食崖も見られる。島縄文遺跡はその一角にあり、多くの縄文土器が検出されている。また縄文土器は江北、米里でも検出されている。

南部丘陵地帯はなだらかな原野で、藩政時代までは周辺村々の入会採草地が入り組んでいた。土下山、曲山、茶白山などに多くの古墳が密集しており、その密集数はかなり多いもので、丘陵地帯の尾根づたいに分布している。特に、全長33mを測る前方後円墳、土下213号墳の周辺からは、鹿埴輪の他に、人物埴輪などが出土しており、土下古墳群に伴う埴輪文化の特徴を見ることが出来る。

茶白山山麓には殿屋敷遺跡があり、8～9世紀の大規模な柱穴をもつ建物跡や古代住居跡の遺構が多く検出され、この時期の当地域の歴史をうかがうことが出来る。その他中世に至るまで、著名な遺跡が多く町内に見られる。



挿図3 曲小山ヶ谷遺跡・曲宮ノ前遺跡遺構図

第3章 調査の結果

第1節 調査の概要

調査地 調査地は丘陵裾部の標高60mから80mの緩斜面部に位置し、現況は果樹園である。北東から北に向かって曲小山ヶ谷遺跡、曲宮ノ前遺跡、曲A調査区、曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳と調査地が分割される。ここでは便宜上、曲小山ヶ谷遺跡をA区。曲宮ノ前遺跡をB区。曲A調査区をC区。曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳をD区区と呼称する。

調査面積 A区227.62㎡、B区191㎡、C区219.65㎡、D区430.86㎡で調査区の合計面積は、1069.13㎡である。

- A 区** まずA区の調査から開始し、続いてB区、C区、D区の順に調査を行っていった。A区においては、掘り下げ段階において、土器包含層が検出されたので、遺構検出のために慎重に掘り下げたところ、竪穴住居跡を1棟検出した。
- B 区** B区においては、竪穴住居跡1棟、段状遺構1基、土坑1基、溝状遺構1本を検出した。竪穴住居跡、段遺構の埋土中からまとまった量の土器の出土を見た。
- C 区** C区については、北東から北西に傾く斜面部で、遺構は検出されなかった。このC区のすぐ南側に海竜王神社がある。
- D 区** D区においては、3基の古墳が検出された。1号墳の周溝内からは、石蓋土壙が2基検出されたが、1号墳に関係する石蓋土壙と推定される。2号墳、3号墳の周溝からは供献土器と推定される土師器の完型品が出土している。

第2節 曲小山ヶ谷遺跡、曲宮ノ前遺跡、曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳の調査

曲小山ヶ谷遺跡(A区) A区は標高59mから60mを測る平坦面の一角に位置し、現況地形からして、若干の地表面が下がった場所が認められたために竪穴住居跡等の遺構があるのではないかと推定された。竪穴住居跡の埋土堆積層上位から床面まで、土師器の出土がまんべんなく見られた。時期は古墳時代前期のものが主をなしていた。

曲宮ノ前遺跡(B区) B区は標高68mから73mを測る緩斜面部で、竪穴住居跡1棟、段状遺構1基、溝状遺構1本、土坑1基が検出された。竪穴住居跡、段状遺構、溝状遺構から土師器、須恵器が出土している。時期は古墳時代後期のものが主をなしていた。

曲55号墳・234号墳・235号墳(D区) D区は、標高73mから68mを測る緩斜面部に位置し、55号墳は、墳丘部の盛土が残っていたが、234号墳、235号墳は、墳丘が削平されていた。これは果樹園に造成した時に削平されたものと考えられる。3基の古墳とも主体部は検出されなかったが、1号墳周溝内から石蓋土壙2基、2号墳、3号墳の周溝内から完型の土師器が多く出土している。時期は古墳時代中期後半と考えられるものである。

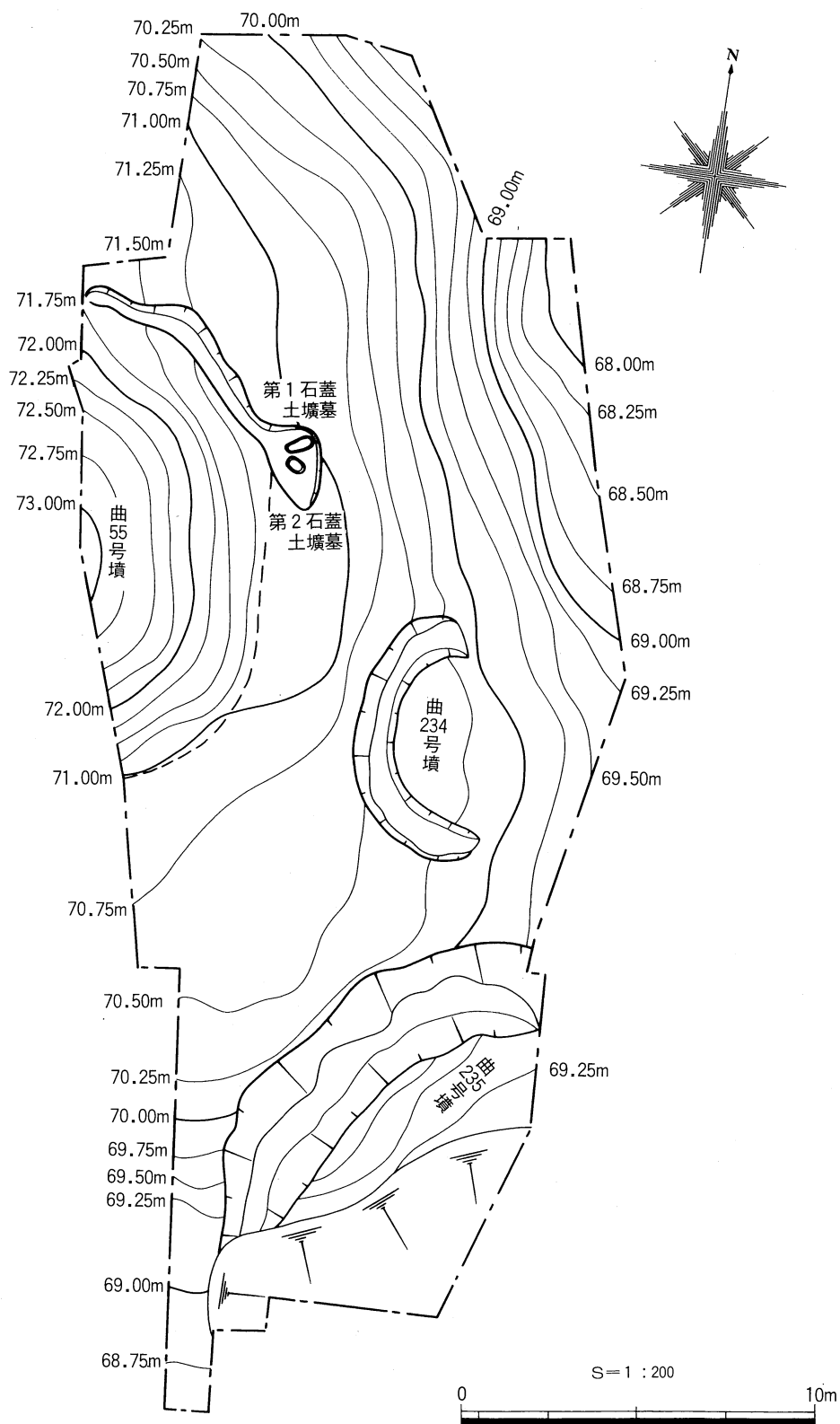


插图4 曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳遺構図

第1 竪穴住居跡 (挿図5、図版1)

位置 A区の北側に位置し、平坦面に造られている。床面の平均標高は59.80m を測る。

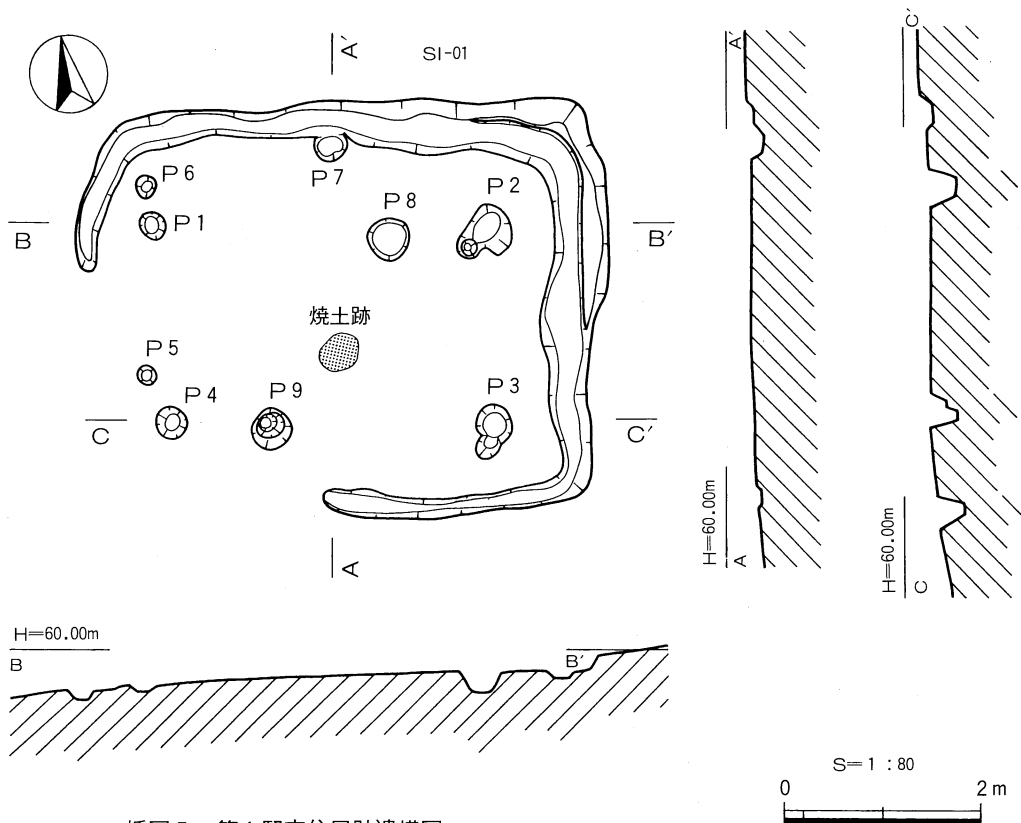
形態 平面形は長方形を呈す。壁高は北壁で最高19cmを残す。床面は平坦で長辺（東西長）5.40m、短辺（南北長）4.22m を測り、残存床面積は15.75㎡である。床面中央よりやや南寄り円で円形の赤色焼土跡が検出された。

側溝 側溝は北側～東側側壁下は完全に検出されたが、西側一部と南側一部は流失している。幅は一様ではないが、西側部分で最大43cm、南側で20cm、深さ10～5cmを測る。断面形はU字形を呈す。

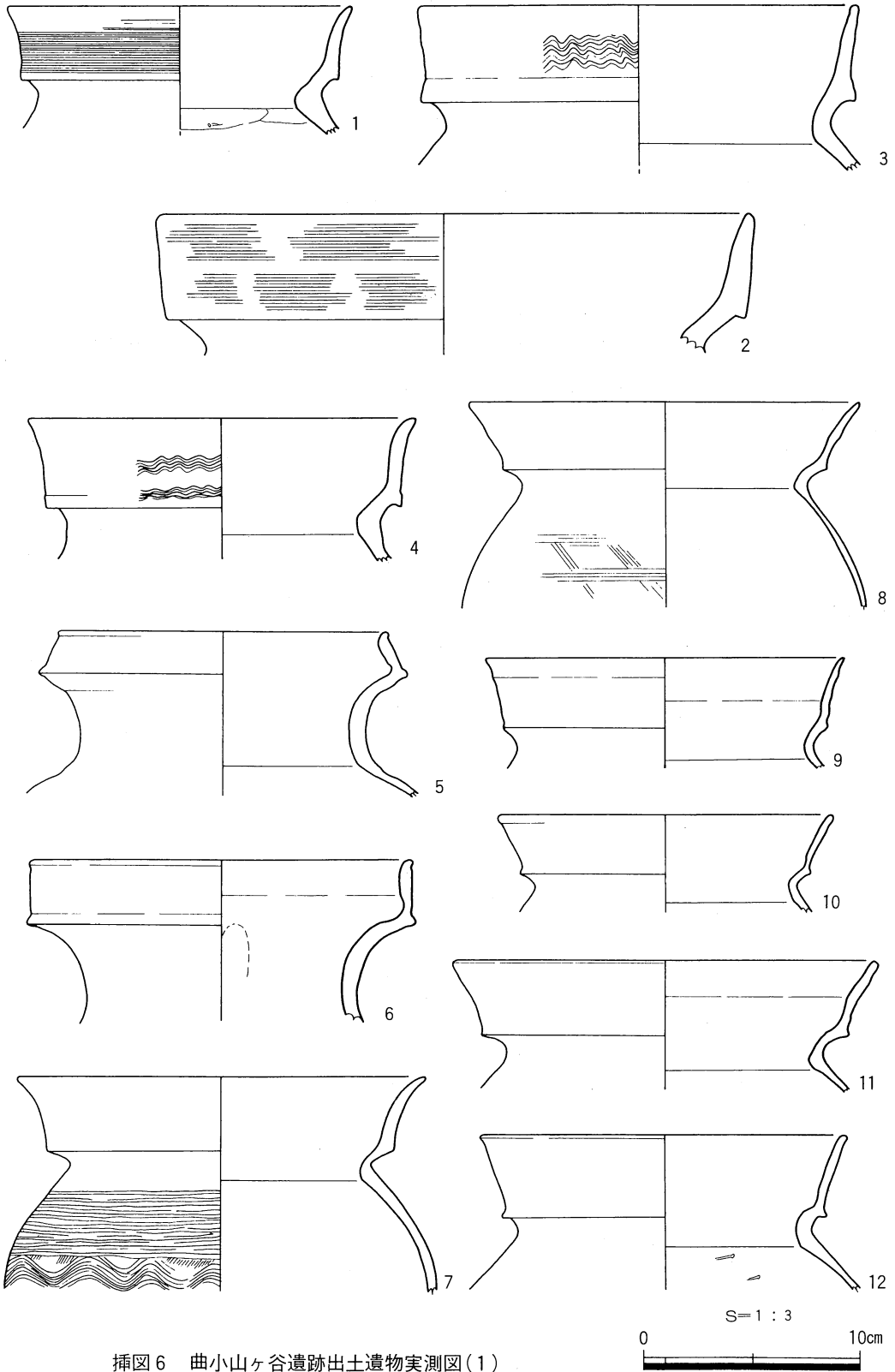
柱穴 床面からピット9本が検出された。このうちP1・P2・P3・P4の4本はその配置、規模からして支柱穴と考えられ、P5～P6・P8～P9は補助柱と推定される。P7は楕円形状で北側側溝の中央肩部に接して配された特殊ピットと思われる。各柱穴の規模はP1（29×23-10）、P2（61×43-21）、P3（51×36-29）、P4（32×30-28）、P5（20×18-5）、P6（20×20-5）、P7（35×31-13）、P8（43×40-16）、P9（40×37-28）cmを測り、柱穴間距離はP1～P2で3.40m・P2～P3で2.05m・P3～P4で3.30m・P4～P1で2.00mである。

遺物 埋土中より土師器甕片が出土している。

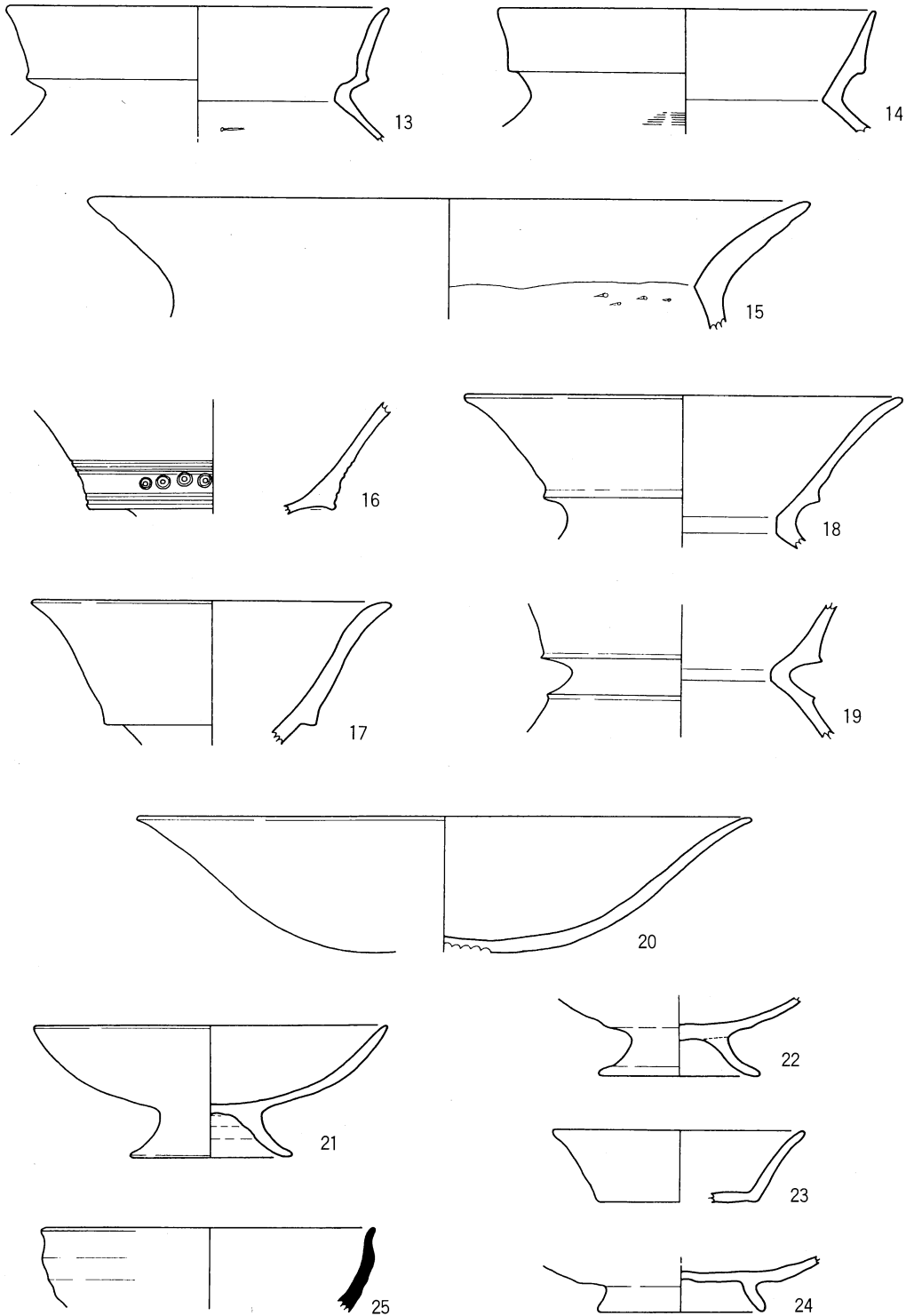
時期 出土遺物より古墳時代前期のものと考えられる。



挿図5 第1 竪穴住居跡遺構図



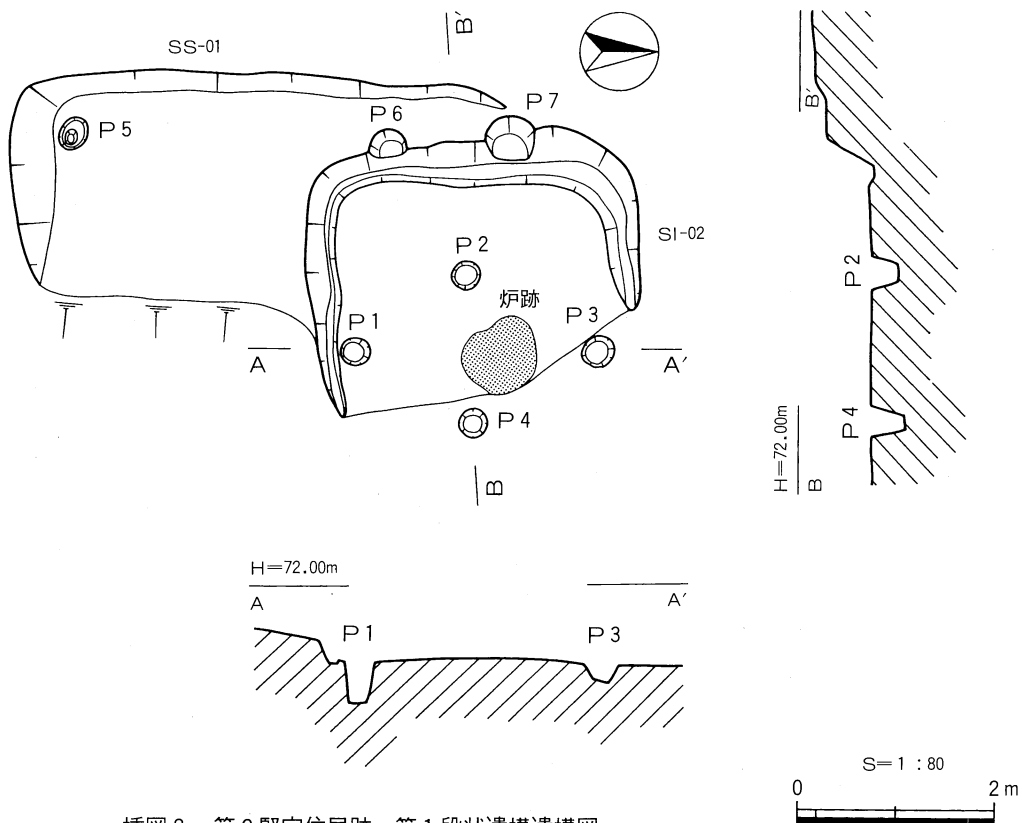
挿図6 曲小山ヶ谷遺跡出土遺物実測図(1)



挿図7 曲小山ヶ谷遺跡出土遺物実測図(2)

第2 竪穴住居跡 (挿図8、図版1)

- 位置** B区北西側で、標高71.50mを測る低丘陵裾部に立地する。第1段状遺溝の北側床面を掘り込んで造られている。床面の平均標高は71.30mを測る。
- 形態** 東側が流失しており全形は確認できないが、平面形は方形と推定される。規模は長辺(南北)3.45m、短辺(東西残存部)2.65m、残存床面積5.05㎡を測る。側壁は南東～北側が残存し、壁高は西側で最高48cmである。
- 側溝** 側溝は幅20～12cm、深さ5cmの断面U字形を呈す。
- 柱穴** 床面から4本検出された。いずれも主柱穴と考えられ、その配置からP1とP3の2本柱、及びP2とP4の2本柱と2棟のプランが考えられる。後者から前者へ建て替えられたと推定される。規模はP1(30×28-42)、P2(30×30-28)、P3(33×32-20)、P4(30×29-36)cmで、柱穴間距離はP1～P3で2.50cm・P2～P4で1.50mを測る。
- 炉跡** 床面中央部で80×76cmの範囲の円形に赤く焼けた極めて浅い凹みを検出した。炉跡と思われる。
- 遺物** 遺物は床面からは全く検出されなかったが、埋土上位より土師器甕片が出土している。
- 時期** 出土遺物より古墳時代後期(7世紀後半)のものと考えられる。



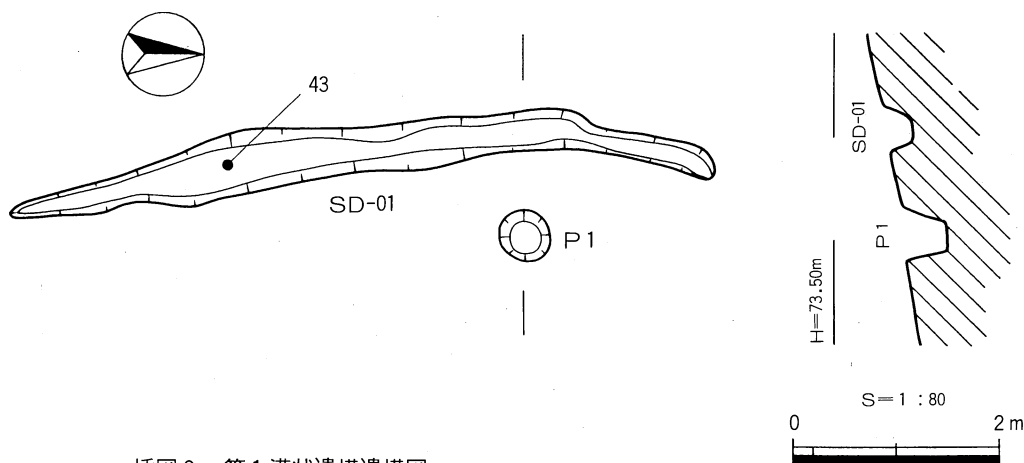
挿図8 第2 竪穴住居跡・第1段状遺溝遺構図

第1段状遺構（挿図8）

- 位置** 第2 竪穴住居跡の南側に接して造られている。床面の平均標高は71.75m を測り、第2 竪穴住居跡の床面より45cm程高い。
- 形態** 緩斜面の上側を口の字状に掘り込んで平坦面を造成している。掘り込み壁高は最大で38cmを残し、平坦面の規模は長辺（南北長）4.55m、短辺（東西長）2.10m を測る。側壁下に側溝はない。
- ピット** 床面から3本のピットを検出した。規模はP 5（36×29-38）、P 6（38×28-30）、P 7（50×46-35）cmであり、このうちP 6・P 7は第2 竪穴住居跡の西側側壁に切り込まれている。
- 時期** 床面から土師器、須恵器細片が出土している。第2 竪穴住居跡と同時期に機能したものと推定され、古墳時代後期（7世紀後半頃）のものと考えられる。

第1溝状遺構（挿図9）

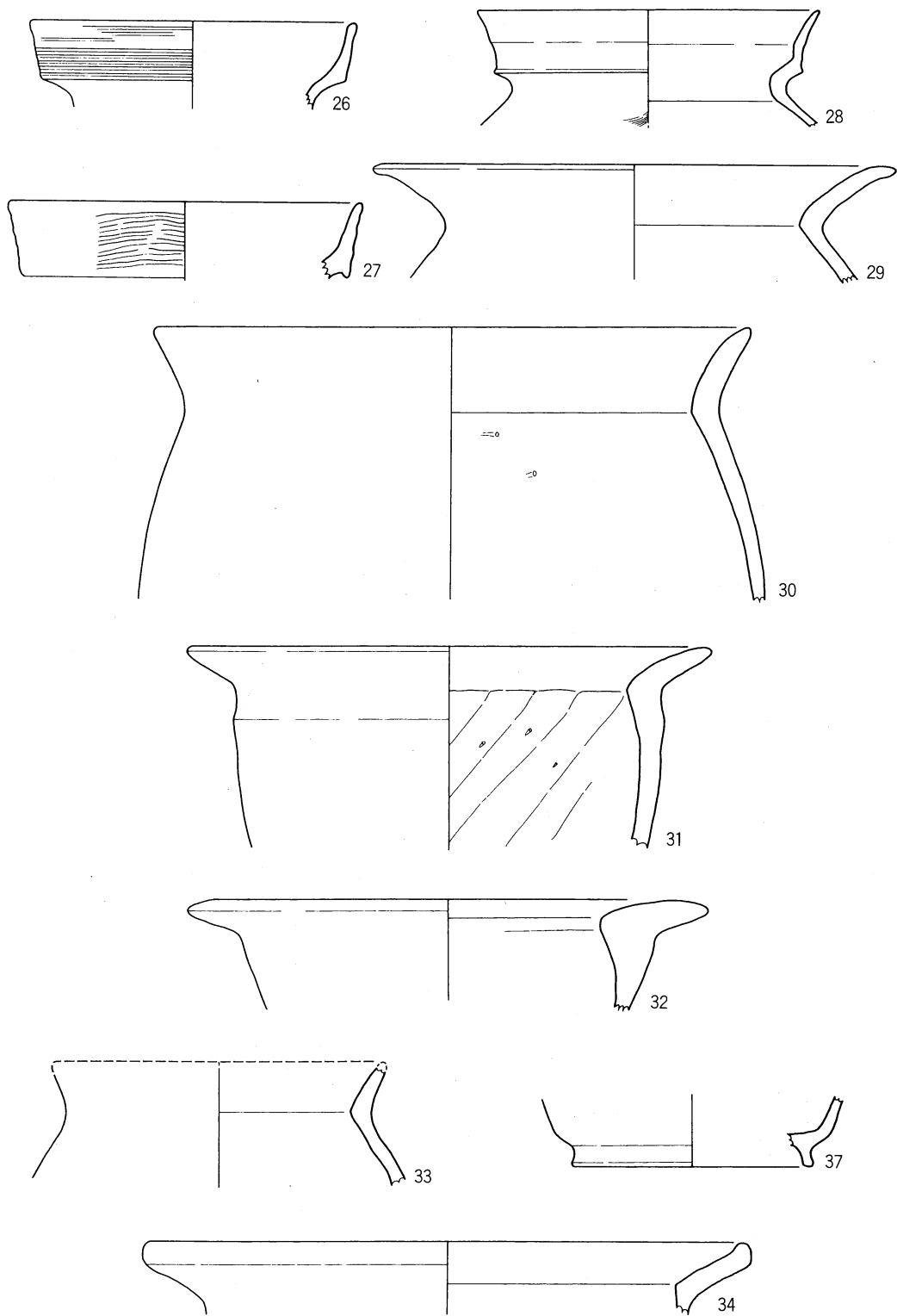
- 位置** B区南西側に位置する。
- 形態** 等高線に沿う形で南北に延びている。規模は全長6.90m、幅0.60m、深さ30cmを測り、断面U字形を呈す。
- 遺物** 須恵器高杯が出土している。
- 時期** 出土遺物から古墳時代後期（7世紀後半）のものと考えられる。



挿図9 第1溝状遺構遺構図

第1土坑

- 位置** B区西側に位置する。
- 形態** 平面楕円形で、長軸（南北長）2.02m、短軸（東西長）0.65m、深さ20cmを測る。
- 時期** 遺物が全く出土しなかったため、時期・性格とも不明である。



0 S=1:3 10cm

挿図10 曲宮ノ前遺跡出土遺物実測図(1)

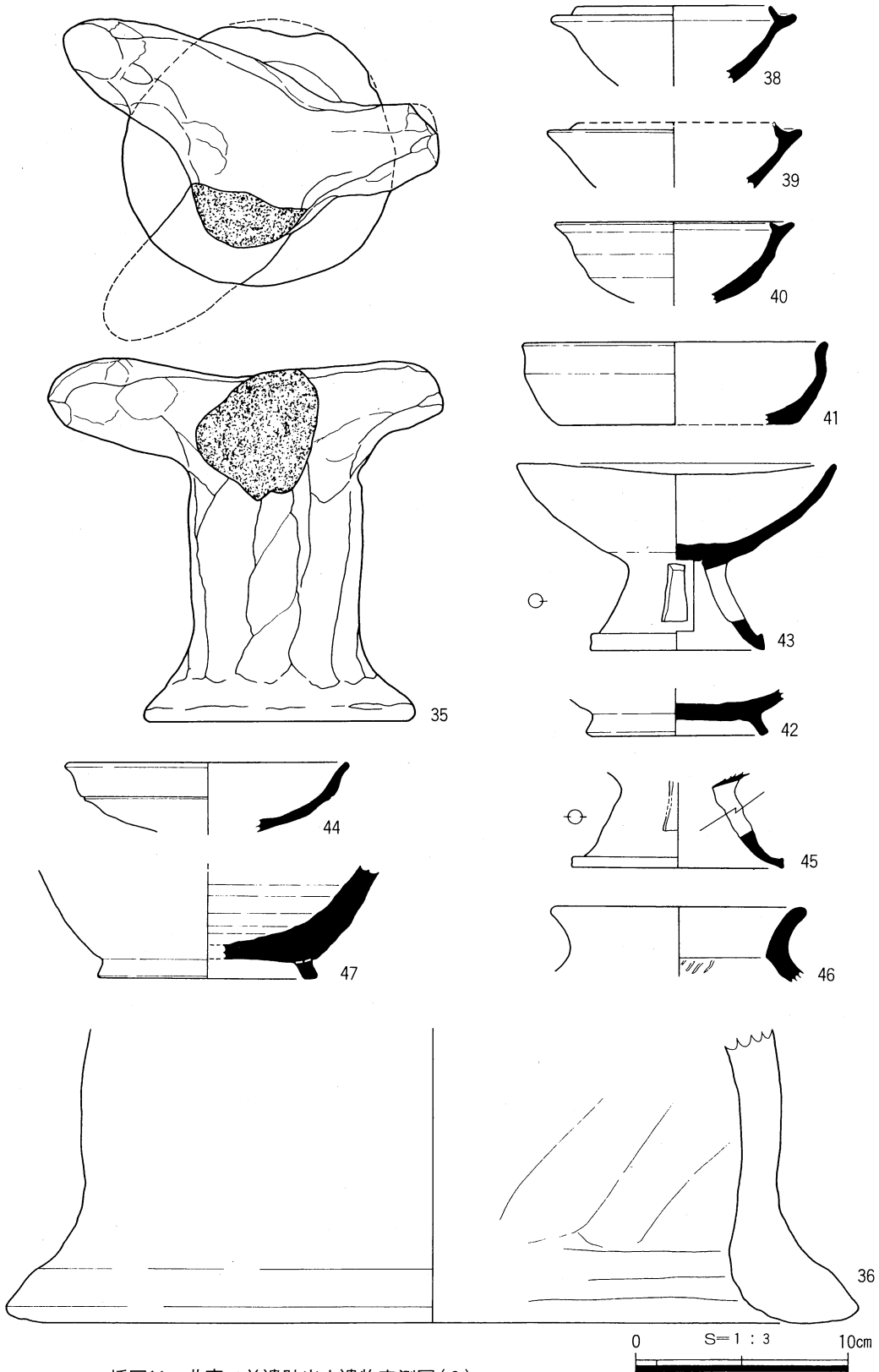
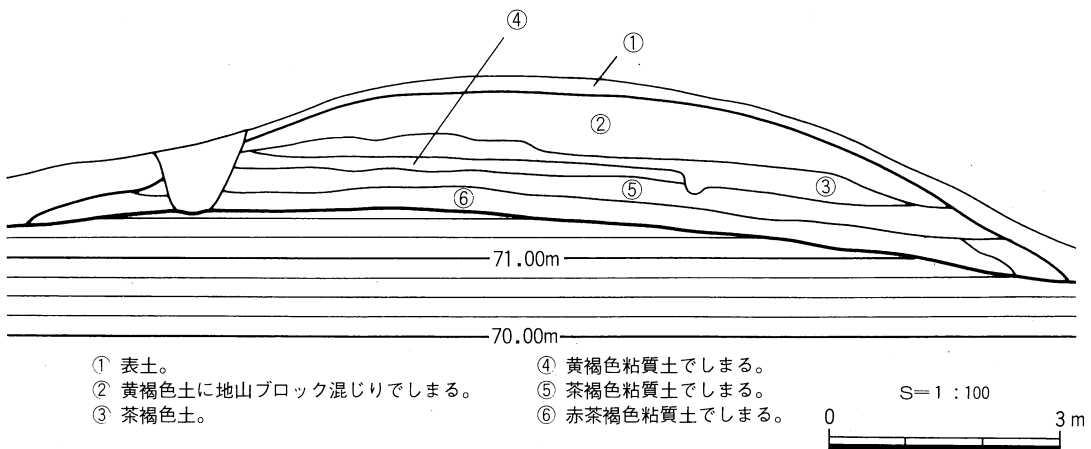


插图11 曲宮ノ前遺跡出土遺物実測図(2)

曲55号墳 (挿図12・13、図版2)

- 立地** 曲55号墳は標高73.20mを測る丘陵の先端部緩斜面に立地する。調査区域の関係から古墳の東側約半分の調査に留まった。
- 墳丘** 墳丘の規模は南北長13.50m、周溝底から墳頂部までの高さは北側で約2.30mである。墳丘を断ち割った盛土の状況は、墳丘裾部は地形に沿って盛土されていると推定され、基盤層の上に約1.60mの厚さでほぼ水平に互層状に積み上げられている。
- なお、主体部は調査区の関係から検出できなかった。
- 周溝** 周溝は墳丘の北側にやや弧状にみられ、全長約9mを検出したに留まり、全容は分からない。周溝幅は1.0~0.5mで、深さは最高0.7mを測り東側の周溝端部では浅くなり周溝底も低くなっている。断面形はU字状を呈す。
- 周溝内埋** 周溝の南東側端部で石蓋土壙墓2基が近接して検出された。2基とも小型である。
- 葬施設** 平面長方形を呈し、土壙上縁部は長軸68cm、短軸は北東側で最大27cmを測るが、南
- 第1石蓋** 西側は17cmと幅狭になっている。深さは26cmである。主軸はN-62°-Eをとる。土壙
- 土壙墓** の蓋石は3枚の長辺46~34cm、厚さ5cm大の板石を使い、南側に1枚の小さな板石を補い、ほぼ土壙上面を覆っている。土壙底面は平坦で、南西側に向ってやや傾斜がつき下がっている。底面北東側には12~10cm大の小さな板石3枚を北東壁に掛けて斜めに並べ石枕とし、頭位を北東側にとっている。
- なお、墓壙内からは副葬品等は全く検出されなかった。
- 第2石蓋** 第1石蓋土壙墓の南側5cmに近接して掘り込まれている。平面長方形を呈し、土壙
- 土壙墓** 上縁部の規模は長軸44cm、短軸31cm、深さ15cmを測る。主軸はN-63°-Wをとる。土壙の蓋石は4枚の長辺48~32cm、厚さ3cmの板石を使い、土壙上面を被っている。底面はほぼ平坦である。
- 時期** 本古墳からは墳丘上、周溝内からも遺物は全く検出できなかったが、立地条件等から古墳時代中期頃のものとして推定される。



挿図12 曲55号墳墳丘断面図

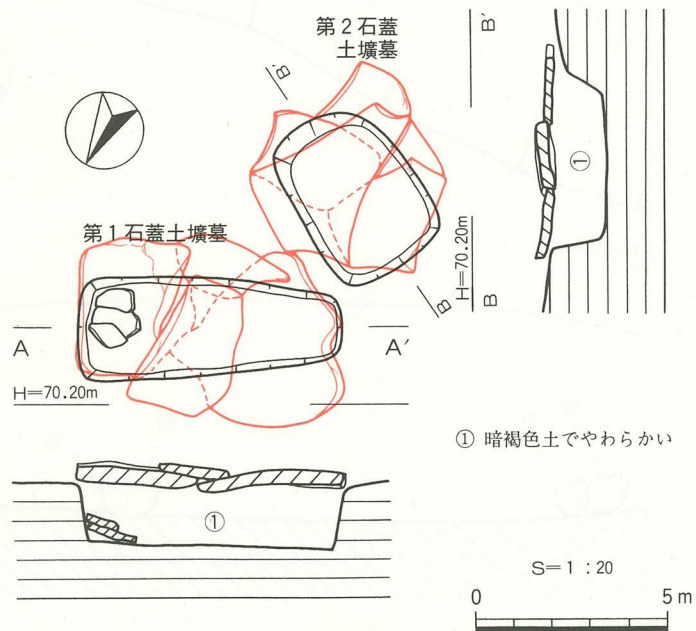
曲234号墳（挿図14、図版2、3）

- 立地 D区の中央よりやや東寄りで、曲55号墳の南東下に近接して造られている。
- 墳丘 墳丘部は削平されており、周溝部が残存するのみである。そのため、主体部は全く認められなかった。墳丘部の規模は南北長5.10mを測る。
- 周溝 周溝は山側に半円状に掘り込まれている。幅は1.25～1.05m。深さは0.20mを測り、断面逆台形状を呈す。
- 遺物 周溝内から土師器甕2個体（48・49）と小型壺1個体が出土している。
これらの土器は南側周溝底部直上で肩部寄りの所で互いに接して直立した状態で検出された。供献土器として置かれたものと考えられる。
- 時期 出土遺物より古墳時代中期後半のものと考えられる。

曲235号墳（挿図15、図版3）

- 立地 D区の北端で、曲234号墳の北側に近接して造られている。
- 墳丘 墳丘部は大きく削平されており、周溝部が残存するのみである。そのため、主体部は全く認められなかった。墳丘部の規模は南西—北東長で9.50mを残す。
- 周溝 周溝は山側に半円状に掘り込まれたものと推定される。幅は2.95～1.60m。深さは1.15mを測り、断面逆台形状である。
- 遺物 周溝内3カ所から土師器甕4個体（50・51・52・53）、小型壺1個体（54）、高杯1個体（55）や石器1個（S1）が出土している。これらの遺物はいずれも北西側周溝底部直上で検出された。まず、50・51は互いに接して傾いた状態で、52・55は前者から2.10mの距離をおき北東側でやや傾いた52の口縁内に55がすっぽりと納まった状態で、そして、53・54・S1の一群は後者から1.00mの距離をおき北東側で直立した状態で検出された。これらのものは、恐らく供献遺物として3カ所に周溝肩部を掘り広げて置かれたものと推定される。

- 時期 出土遺物より古墳時代中期後半のものと考えられる。



挿図13 第1・第2石蓋土墳墓遺構図

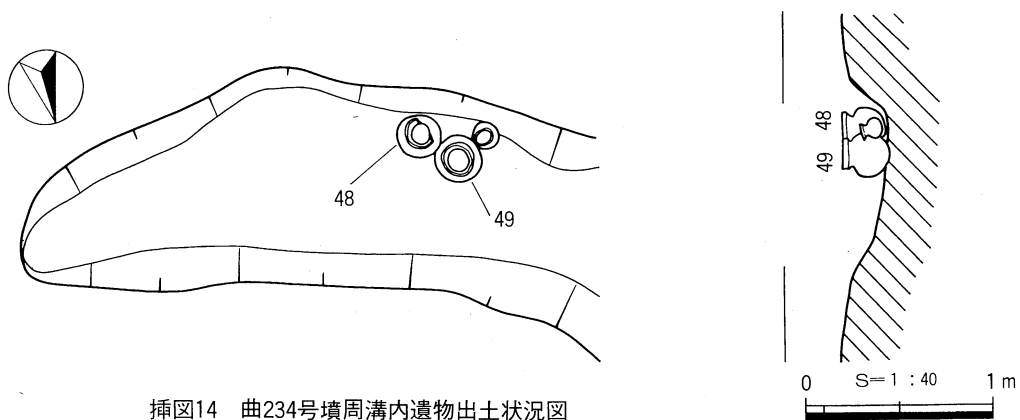


插图14 曲234号墳周溝内遺物出土状況図

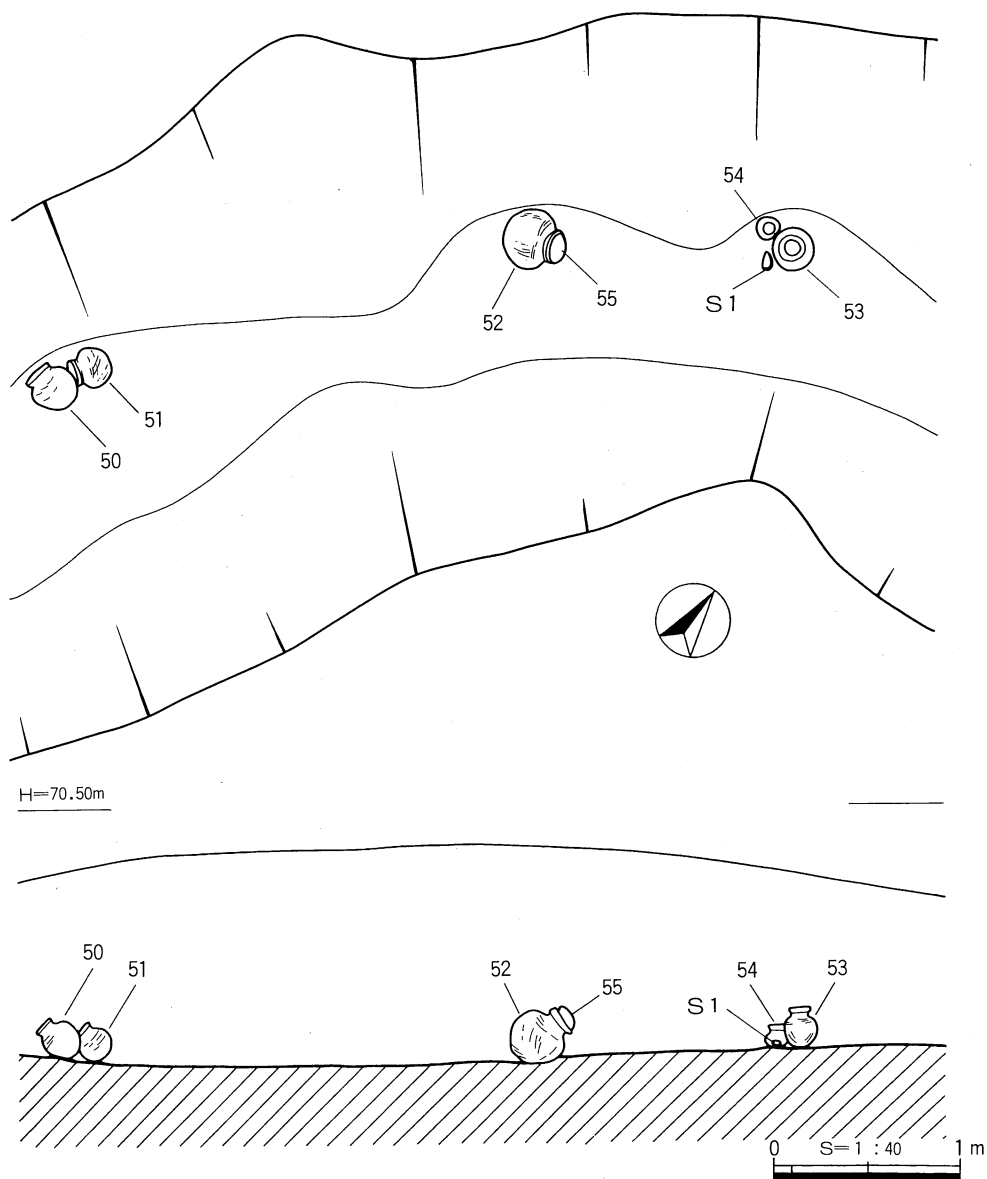
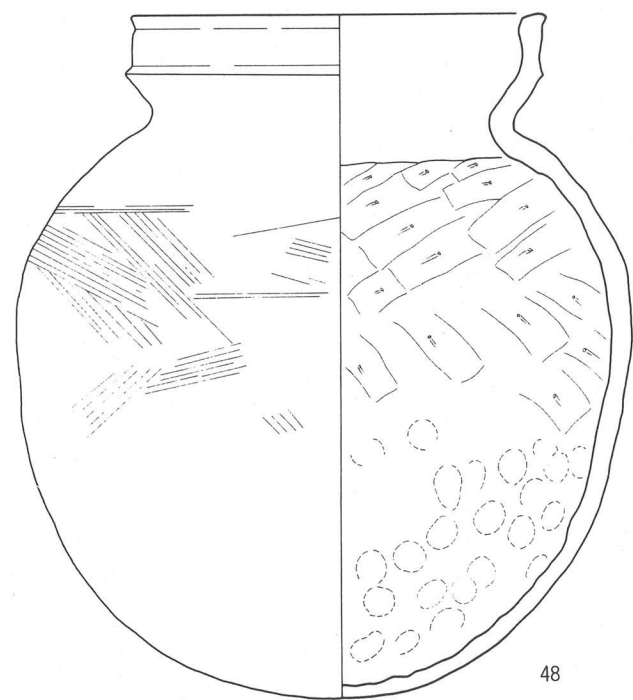
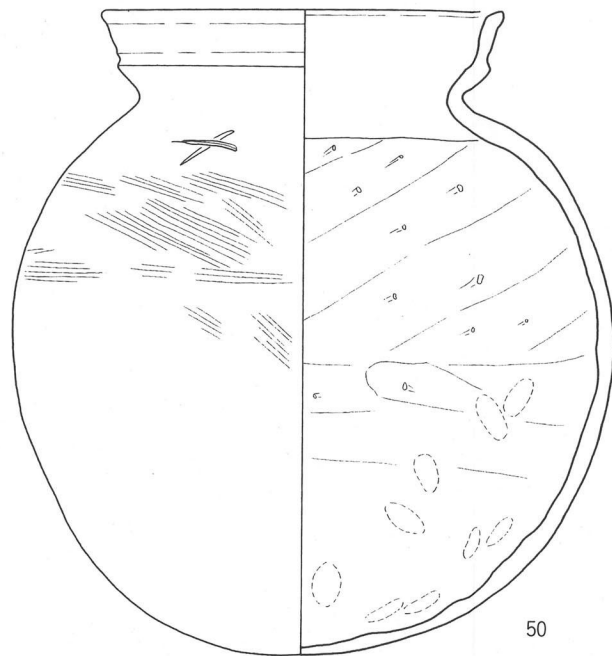


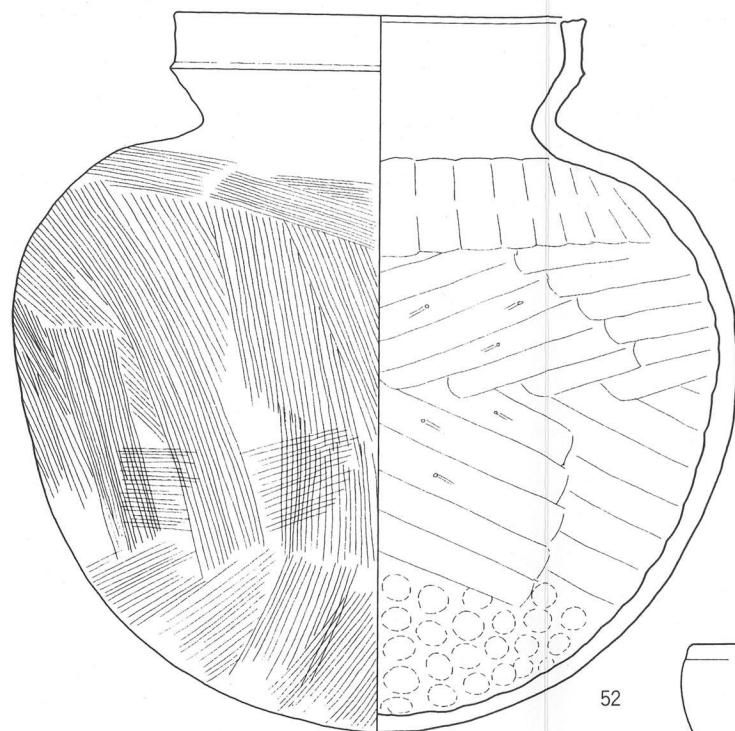
插图15 曲235号墳周溝内遺物出土状況図



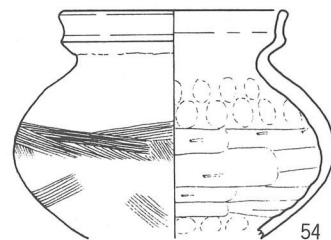
48



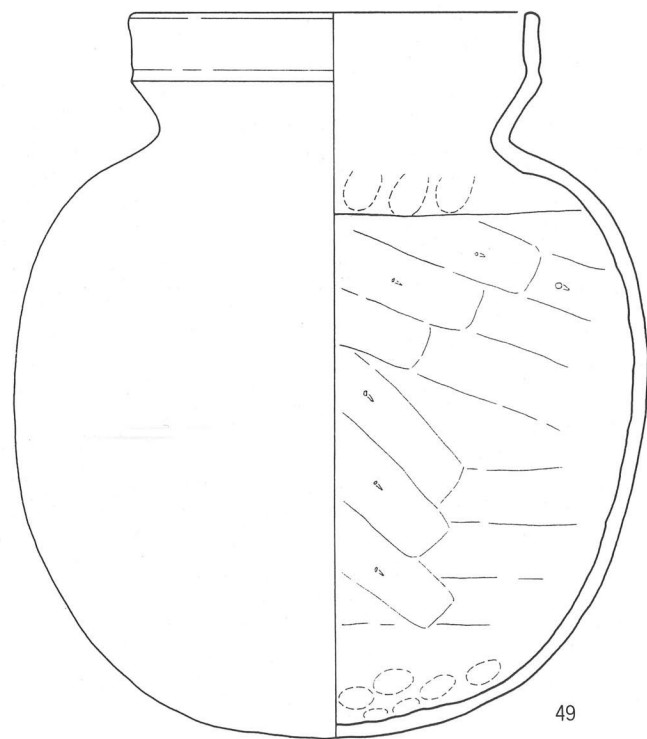
50



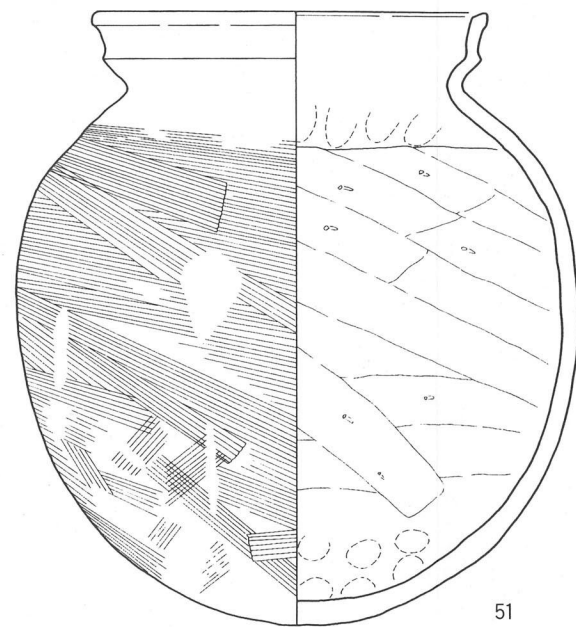
52



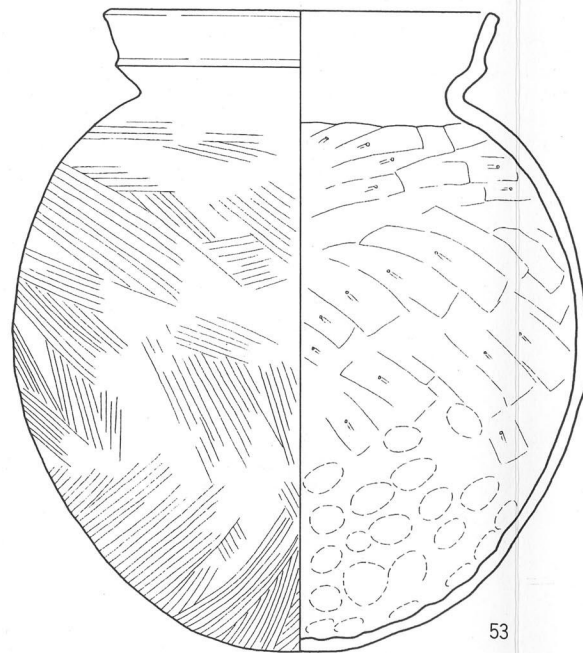
54



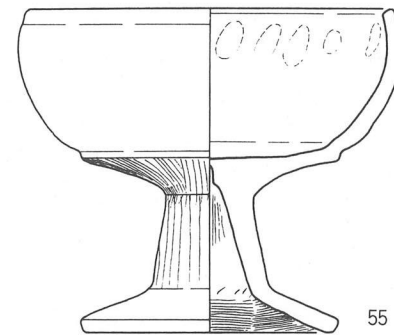
49



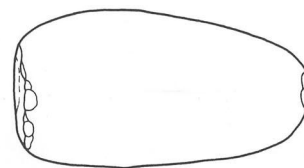
51



53



55



S1

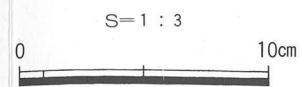
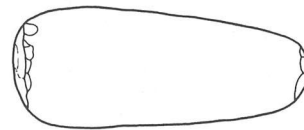
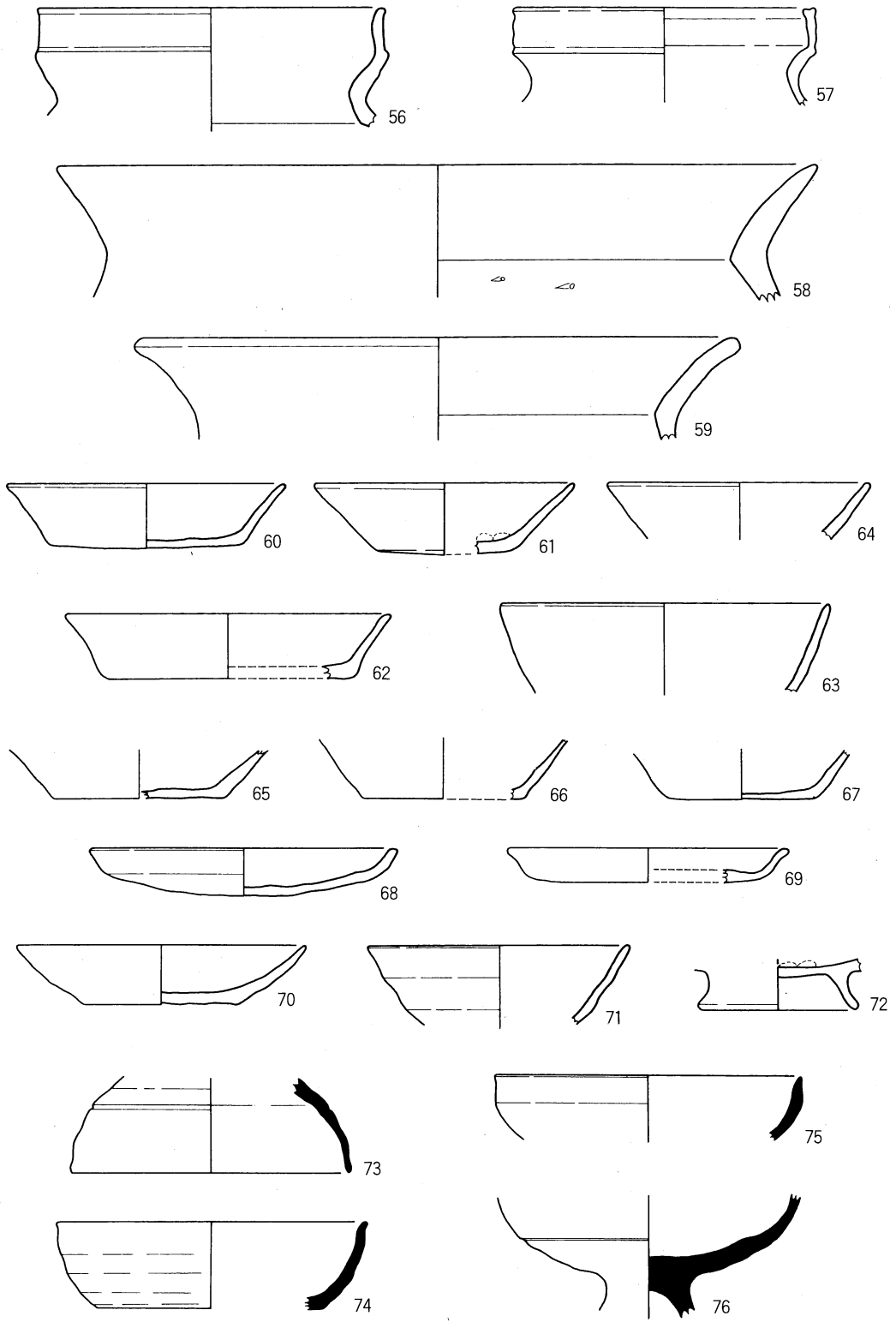


插图16 曲234号墳・曲235号墳周溝内出土遺物実側図



挿図17 曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳その他の出土遺物実側図

第4章 ま と め

1. 遺構について

曲遺跡群ではA区(曲小山ヶ谷遺跡)で古墳時代前期の竪穴住居跡1棟、B区(曲宮ノ前遺跡)で古墳時代後期の竪穴住居跡1棟、段状遺構1基、溝状遺構1本、そして時期不明の土坑1基を、D区(曲55号墳ほか)で古墳時代中期の古墳3基と石蓋土壙墓2基を検出した。ここではD区で検出された遺構について概観する。

(D区の遺構) 一曲55号墳・曲234号墳・曲235号墳

D区は標高73~68mを測る丘陵先端部緩斜面で構成されるが、ここには調査前から周知の古墳、曲55号墳が所在することは確認されていた。今回の調査ではこの古墳の東側に展開する緩斜面が調査対象となった訳であるが、調査の結果、前者の他に墳丘部が削平された2基の古墳(曲234号墳・曲235号墳)が新たに発見された。前者の曲55号墳は径13.5m、高さ2.3mの円墳で、調査区の関係から主体部はかからなかったが、周溝内より石蓋土壙墓2基が発見された。後者のうち曲234号墳は径5mの小さな円墳で周溝内から供献土器が確認された。曲235号墳は径10m以上の円墳と推定されるが、この古墳も周溝内3カ所で供献土器が確認された。時期は曲234号墳と曲235号墳が古墳時代中期後半、曲55号墳は遺物はなく不明であるが、立地条件等から中期のものとして扱った。このように曲遺跡群D区では古墳時代中期の群集墳が展開する所と言っても過言ではなからう。ところで本遺跡は総数230基にも及ぶ古墳群が密集する曲古墳群の一角を占める所であるが、隣接する周辺の丘陵にも数多くの周知の古墳が確認されている。また、昭和55年には本遺跡の南奥に所在する曲148号墳・149号墳・151号墳などの調査が行なわれ箱式石棺を主体とする古墳時代前期の古墳と判明している。一方、平成6年度には倉吉市との町境に位置する曲226号墳の調査が行なわれている。この古墳は横穴式石室を主体とする古墳時代後期の円墳であった。今回の曲55号墳ほか2基の古墳の調査では残念ながら主体部の解明までは至らなかった。しかしながら、曲古墳群の中で古墳時代中期の様相がわずかながら判明したことは今後の曲古墳群の研究に資するものと期待したい。

2. 遺物について

曲遺跡群ではA区・B区・D区で弥生土器・土師器・須恵器が出土している。遺構に伴うものはわずかであり、大半が遺構外からの出土であった。ここでは、これらの遺物を弥生土器・土師器・須恵器・その他に分類し、観察結果を概述する。

(弥生土器) A区—1~4・5~7・14・16・17 B区—26・27

全て遺構外出土であり、5・6は壺で淡黄灰色を呈す複合口縁で鍵尾式並行期。1~4・7・14・26・27は甕で複合口縁で弥生時代後期的場式~鍵尾式並行期。16・17は器台で、16は器台受部、上に3条、下に2条の沈線で区画した間に竹管による2重の同心円スタンプ文を施す。鍵尾式並行期。

(土師器) A区—8・13・15・18～24 B区—28～34・37 D区—48～72

B区28はS1—02、D区48・49は曲234号墳周溝内、D区50～55は曲235号墳周溝内出土で、他は全て遺構外出土である。

①、甕—8・13・15・28～34・48～53・56～59

8・13・28・48～53・56・57は複合口縁で、このうち、48～53は複合口縁の退化期のものである。50には外面肩部にヘラ記号(図版7)を刻んでいる。古墳時代前期、青木V・VI並行と中期後半に大別される。

15・29～34・58・59はくの字状に屈曲する単純口縁で、古墳時代後期(7世紀代)～奈良。

②、小型壺—54

54は複合口縁で、古墳時代中期後半。

③、鼓形器台—18・19

18・19は筒部は短かく、青木V・VIに並行する。

④、高杯—20・55

20は大型の杯部で、青木V・VI並行。55は椀状の杯部をもち、柱状部に刺突痕有り。古墳時代中期後半。

⑤、低脚杯—21・22

21・22ともに青木V・VI並行。

⑥、杯—23・24・37・60～67・71・72

23・60～67・71は内外面赤色塗彩の無台杯。24・37・72は同じく赤色塗彩した有台杯で、奈良時代。

⑦、皿—68～70

68～70は内外面赤色塗彩。奈良時代。

(須恵器) A区—25 B区—38～47 D区—73～76

①、杯蓋—73

②、杯身—25・38～42・74・75

38～40は立ち上がりは短かく内傾し、外に出る38・39と外に出ない40がある。25・41・74は無台杯、42は有台杯。

③、高杯—43～45・76

43は脚部に透しが1カ所しかない。45は脚部に2方透し。

④、長頸壺—47

⑤、甕—46

以上、須恵器は古墳時代終末期(7世紀中～後葉)～奈良時代のものである。

(その他) B区—35・36 D区—S1

①、土製支脚—35

②、かまど—36

③、石器—S1

S1は凝灰岩製石斧で、両端を打ち欠く。

報告書抄録

ふりがな	まがり い せき ぐん はっ くつ ちょう さ ほう こく しょ							
書名	曲 遺 跡 群 発 掘 調 査 報 告 書 1							
副書名								
巻次								
シリーズ名	北条町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	20							
編著者名	樋口 和夫、影山 和雅、松本 哲							
編集機関	北条町教育委員会							
所在地	〒689-21 鳥取県東伯郡北条町土下112 TEL 0858-36-3111							
発行年月日	西暦1996年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃	東経 〃〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まがりこやまがだに 曲小山ヶ谷 遺跡	とっとりけんとうほくぐん 鳥取県東伯郡 ほりじょうちようまがりあざ 北条町曲字 こやまがだに 小山ヶ谷	31366		35° 28' 41"	133° 47' 40"	1995 04~ 1996 03	228㎡	県営北条西 2期地区 農免農道 工事に伴う 発掘調査
まがりみやのまえ 曲宮ノ前 遺跡	北条町曲字 みやのまえ 宮ノ前	〃		35° 28' 34"	133° 47' 37"	〃	191㎡	
曲55号墳 曲234号墳 曲235号墳	北条町曲字 うぐいすだに がしら 鶯谷頭	〃		35° 28' 25"	133° 47' 35"	〃	431㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
曲小山ヶ谷 遺跡	集落跡	弥生 古墳	住居跡 1棟	弥生土器、土師器 壺、甕、鼓形器台				
曲宮ノ前 遺跡	集落跡	古墳	住居跡 1棟 溝状遺構 1本 段状遺構 1基	土師器片 須恵器高杯長頸壺 土製支脚 かまど片				
曲55号墳 曲234号墳 曲235号墳	古墳 〃 〃	古墳 〃 〃	周溝、土壇 周溝 周溝	————— 土師器、甕、壺 土師器、甕				

圖 版



曲小山ヶ谷遺跡 SI-01 (Wより)



曲小山ヶ谷遺跡 SI-01 (Nより)



曲小山ヶ谷遺跡 作業風景 (Wより)



曲宮ノ前遺跡 SI-02 (NEより)



曲宮ノ前遺跡 SI-01 遺物 (Eより)



曲55号墳 調査前 (Nより)



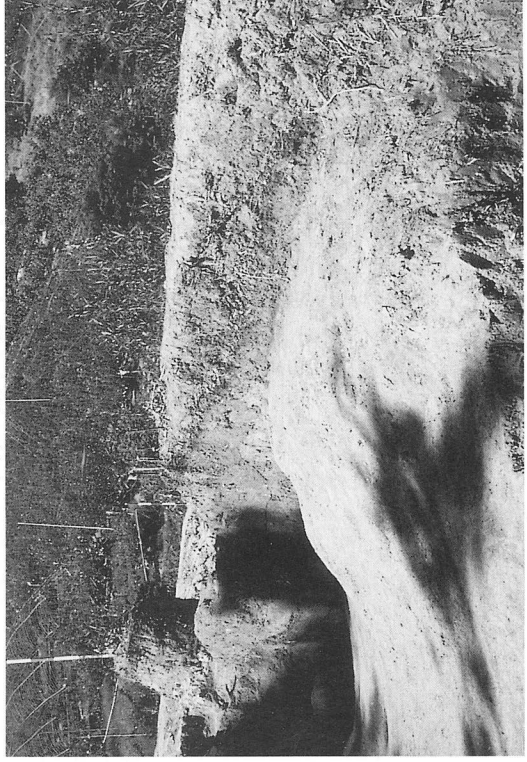
第1・第2石蓋土瘞墓 (Wより)



曲234号墳周溝内遺物 (Wより)



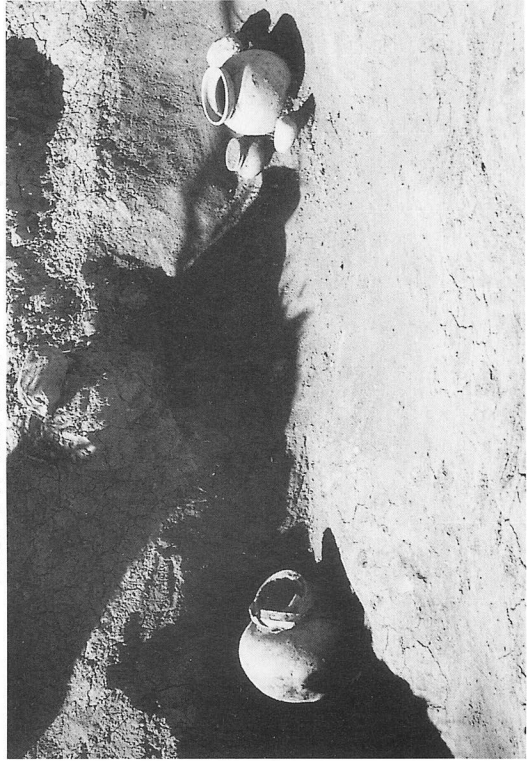
曲234号墳周溝内遺物 (Wより)



曲235号墳周溝 (SWより)

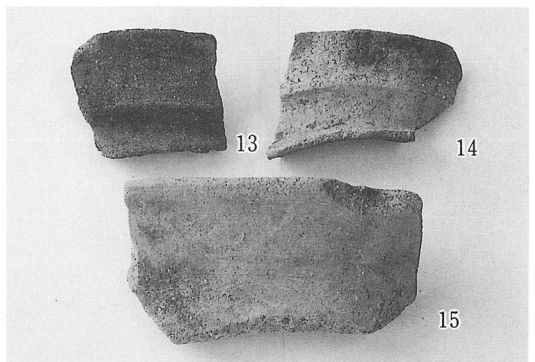
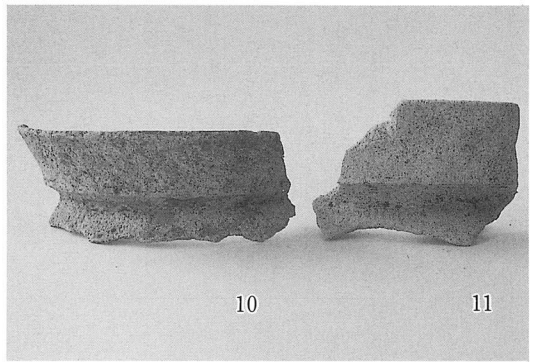
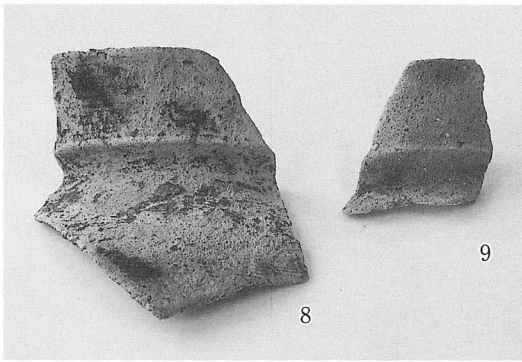
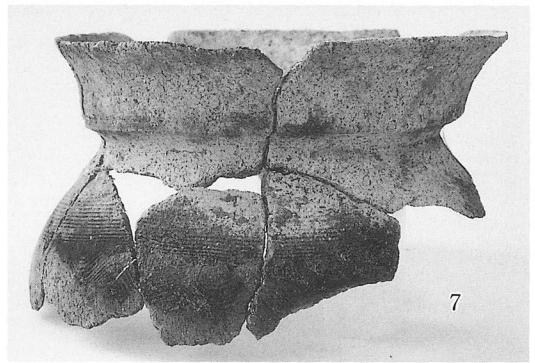
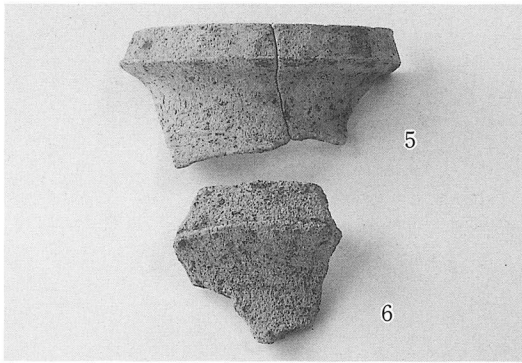
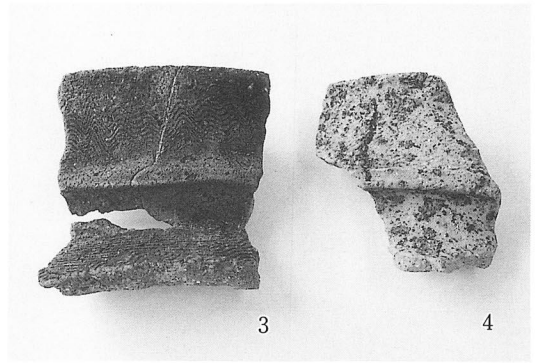
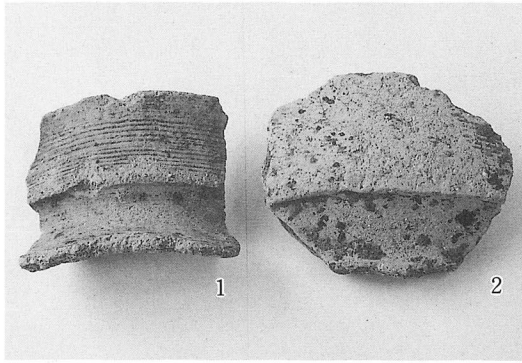


曲235号墳周溝内遺物50・51 (Eより)

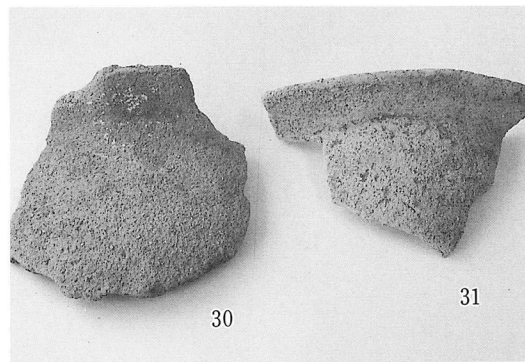
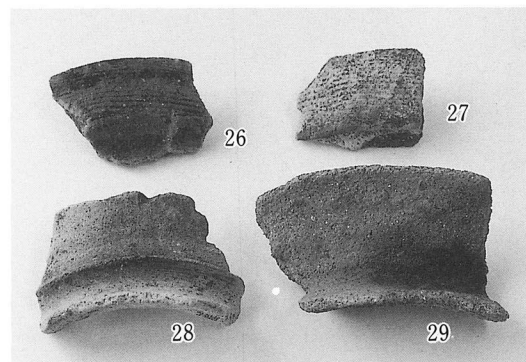
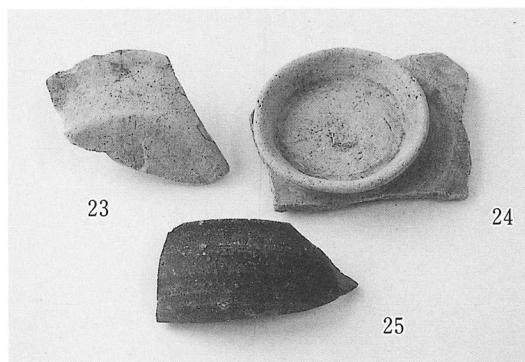
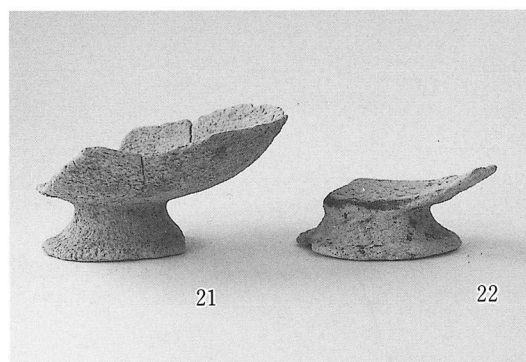
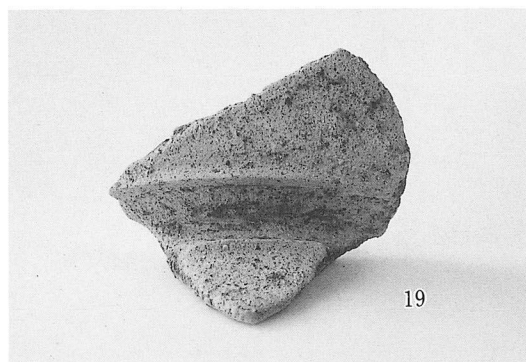
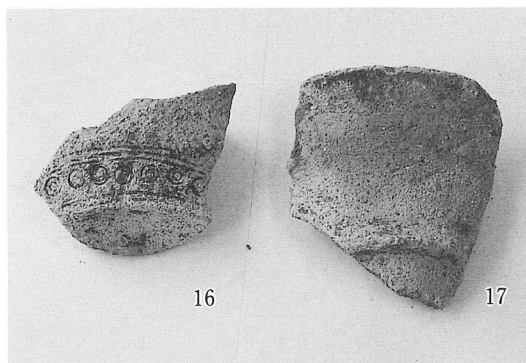


曲235号墳周溝内遺物51~55 (Sより)

図版4

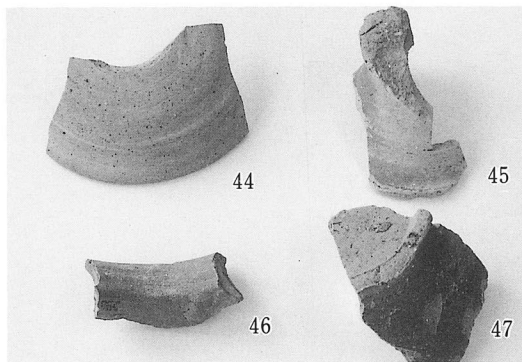
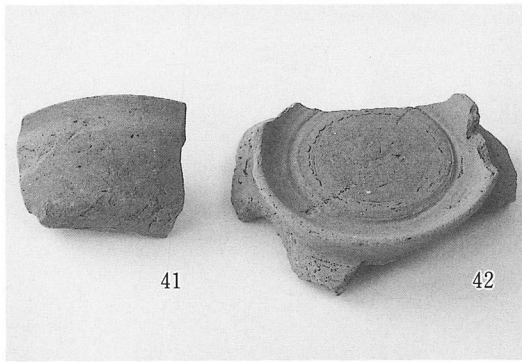
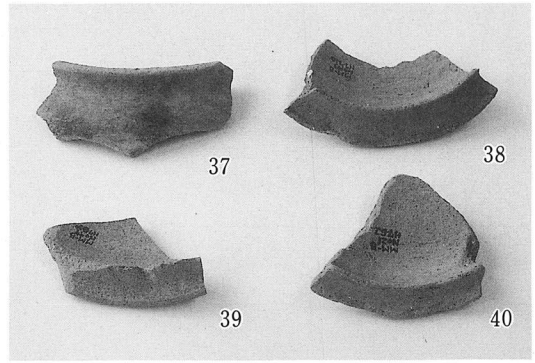
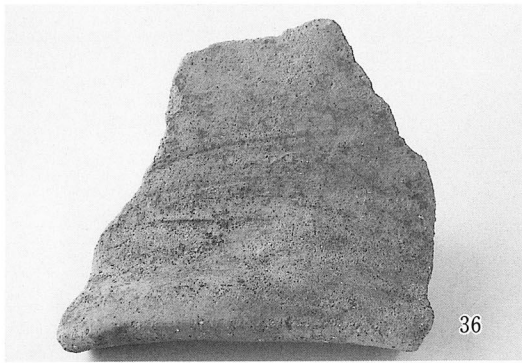
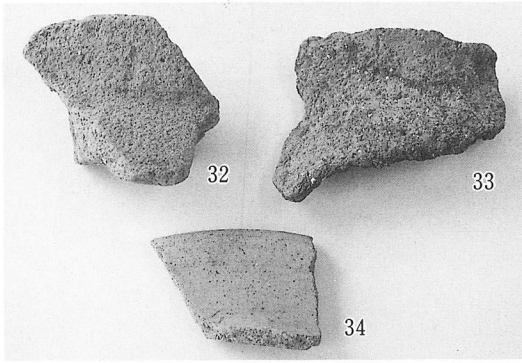


曲小山ヶ谷遺跡出土遺物 (1~15)

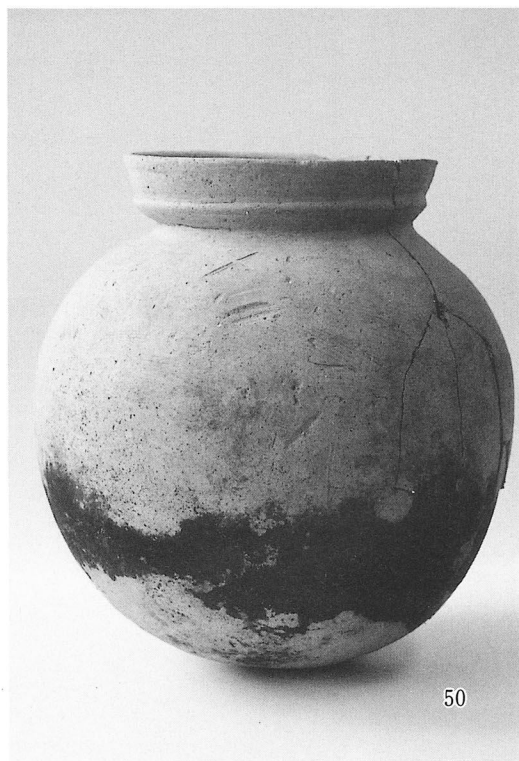
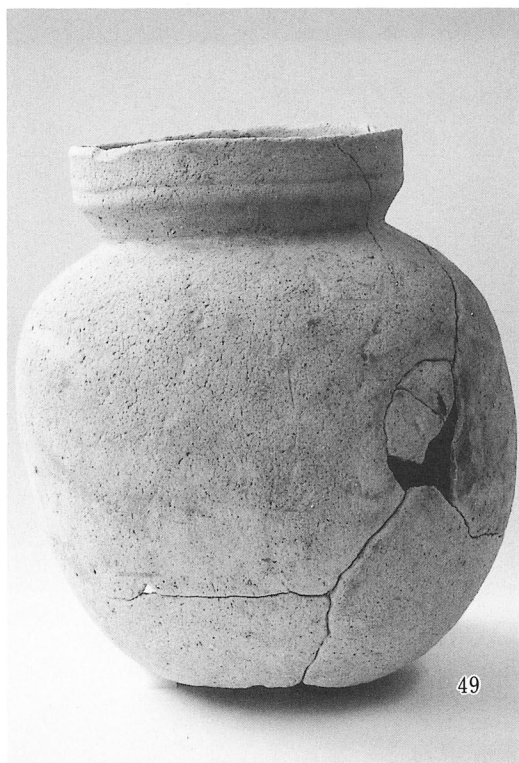
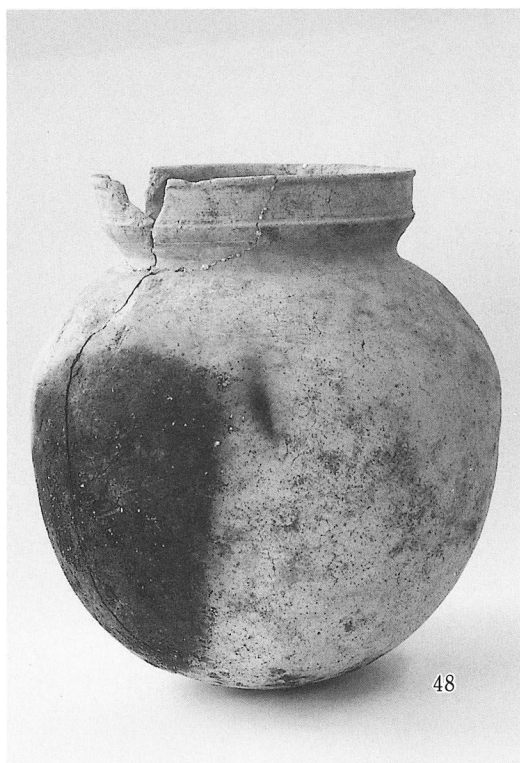


曲小山ヶ谷遺跡 (16~25)・曲宮ノ前遺跡 (26~31)

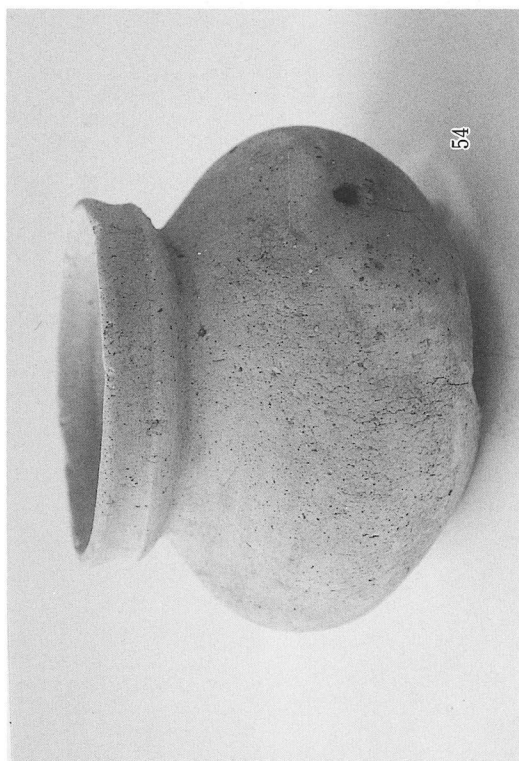
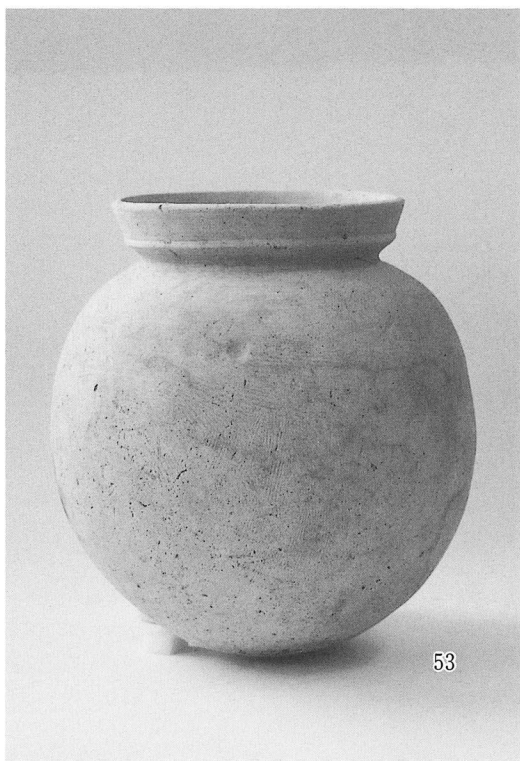
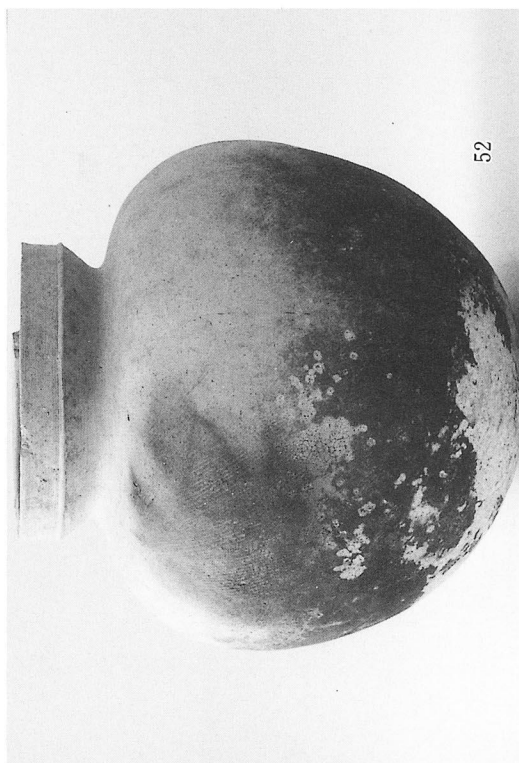
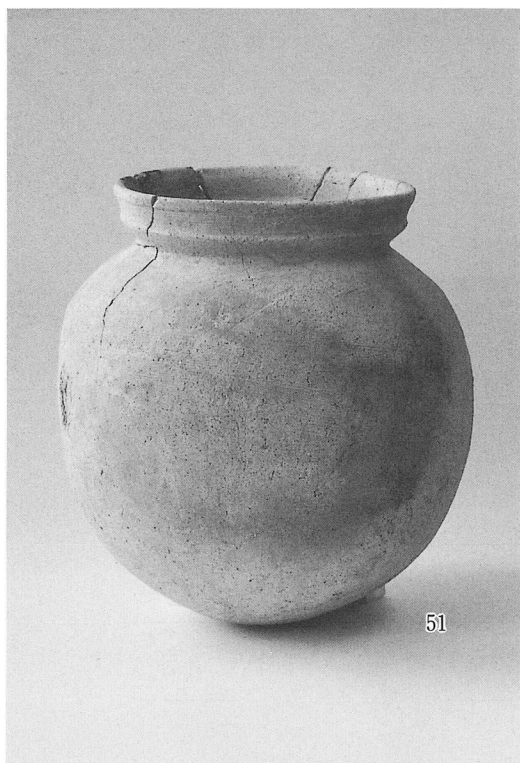
図版6



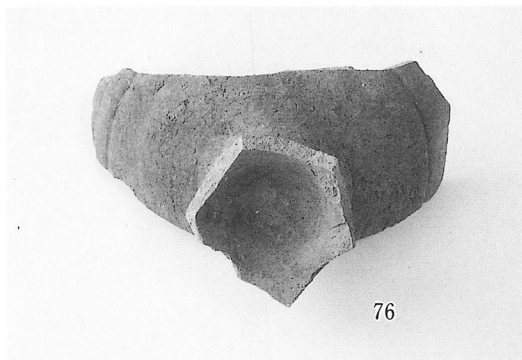
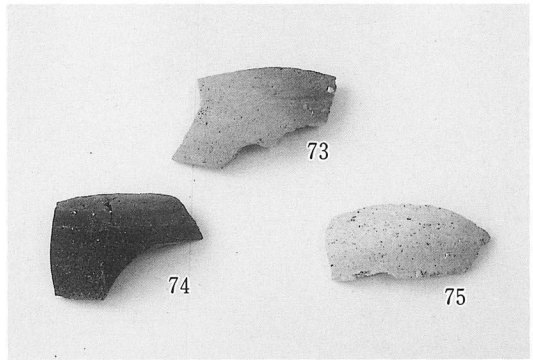
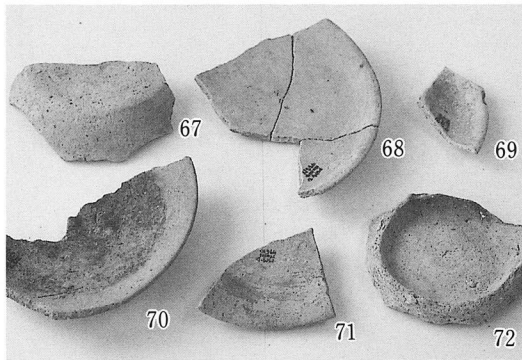
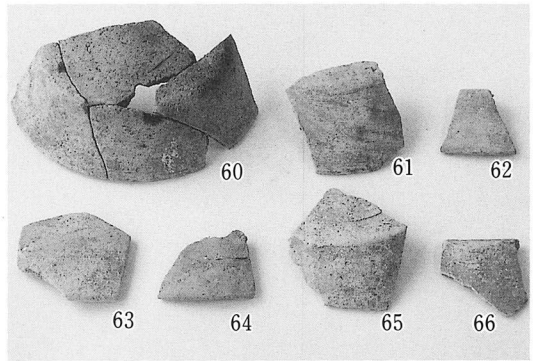
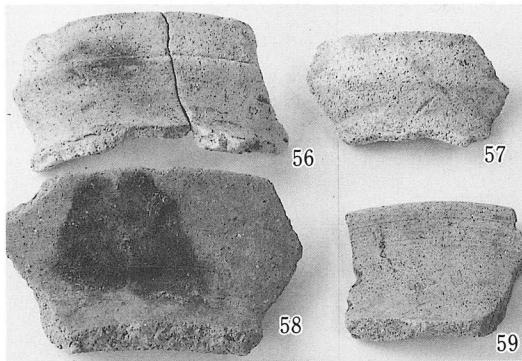
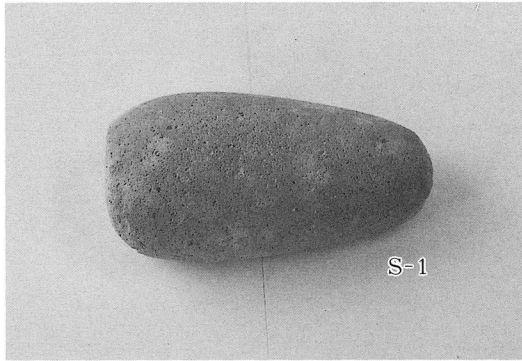
曲宮ノ前遺跡出土遺物 (31~47)



曲234・235号墳周溝内出土遺物 (48~50)



曲234・235号墳周溝内出土遺物 (51~54)



曲235号墳周溝内出土遺物 (S-1 ~55) ・その他遺構出土遺物

平成8年3月印刷
平成8年3月発行

北条町埋蔵文化財報告書20

曲遺跡群発掘調査報告書1

編集 鳥取県東伯郡北条町土下112
発行 北条町教育委員会
印刷 有限会社矢積印刷
製本 鳥取県倉吉市宮川町2-36